

平成 16 年度
学校体育長期研修研究報告

踊る楽しさや喜びを味わう
現代的なリズムのダンスの学習
～場・学習資料・学習形態の工夫を通して～



神奈川県立体育センター
学校体育長期研修員
厚木市立厚木中学校 広瀬 清美

研究主題

踊る楽しさや喜びを味わう現代的なリズムのダンスの学習

～場・学習資料・学習形態の工夫を通して～

I 研究を進めるにあたって

1 主題設定の理由

平成 10 年度改訂の中学校学習指導要領では、体力の低下傾向や活発に運動をする者とそうでない者の二極化等の児童生徒の健康・体力に関する様々な課題を踏まえ、保健体育科の目標として「積極的に運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進」、「体力の向上」があげられている。

そして、今回の改訂の趣旨を生かし、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から、学習内容の弾力化を図り一層選択して履修できるようにすることをねらいとして、ダンス領域に「現代的なリズムのダンス」が導入された。

このダンス学習の内容の広がりや、生涯学習の一つとして社会で多種多様なダンスが幅広い年齢層の人々によって支持されていることに対応したものと考えられる。また、リズムダンスにおいては社会でのダンスブームを反映して、子どもたちにも身近に関心が高く、これまでも授業の導入段階や体育的行事などの様々な場面で実践されてきた。また、保健体育の学習においては、学習内容の広がりとともに、「体ほぐしの運動」との関連で「心と体を一体としてとらえる」可能性も期待されている¹⁾

現代的なリズムのダンスの楽しさは、リズムに乗って自由に踊ることや、仲間と自由にかかわり合って踊ることである。生徒は心地よい音楽のリズムに乗って全身や体の部分を使って弾んだり、揺れたりすることから心身が解放される。また、仲間と動きやリズムを共有する体験から、仲間との親しいかかわりや一体感を味わうことができる教材である。

しかし、中学生期は心身ともに不安定で難しい年代であり、仲間からどのように見られるか不安で自己表現がうまくできず、ダンスと聞くと身構える生徒も少なくない。

本校においても、1 年生女子を対象に体育授業についてアンケートを実施したところ、リズムダンスの学習においては、「リズムに乗れない」「恥ずかしさがある」「動きのイメージがもてない」「友だちとうまくかかわれない」等の課題があげられている。また、教師の指導上の課題としても、「指導や評価の仕方が難しい」「教師側の苦手意識」等があるため、生徒はリズムに乗って踊る楽しさや喜びを十分に味わえていないのではないかとと思われる。

そこで、互いの動きを共有して踊ることができるような場、リズムを取りやすくするようなリズムカード等の学習資料、仲間と動きを教え合うことができるようなグループの編成等の学習形態を工夫することにより、生徒の課題を解決していけるのではないかと考えた。

以上のようなことから、本研究では中学 1 年生の現代的なリズムのダンスの学習において、場や学習資料及び学習形態を工夫することにより、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の目的

本研究では中学 1 年生の現代的なリズムのダンスの学習において、生徒一人ひとりがリズムに乗って踊る楽しさや喜びを味わえる学習指導法を明らかにすることを目的とする。

3 研究の仮説

踊る楽しさや喜びを味わうためには、リズムに乗って体を動かし、仲間と動きやリズムを共有する活動が必要である。

そこで、リズムに乗って体を動かすことができるようにするために、ダンスビデオの視聴により、現代

的なリズムのダンスに対する意欲の高まりや理解の深まりを促し、さらにリズムカードや体カードを活用することによってリズムに乗って、自分らしく自由に体を動かすことができるようになると考えた。

また、学習形態や場を工夫することによって、動きを教え合う、動きを共有して踊る、動きのよさを見つけるなどといった仲間と共に踊る活動ができると考え、次のような仮説を立てた。

仮説

現代的なリズムのダンスの学習において、場・学習資料・学習形態の工夫をすることによって、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

4 研究の内容と方法

(1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料をもとに行う。

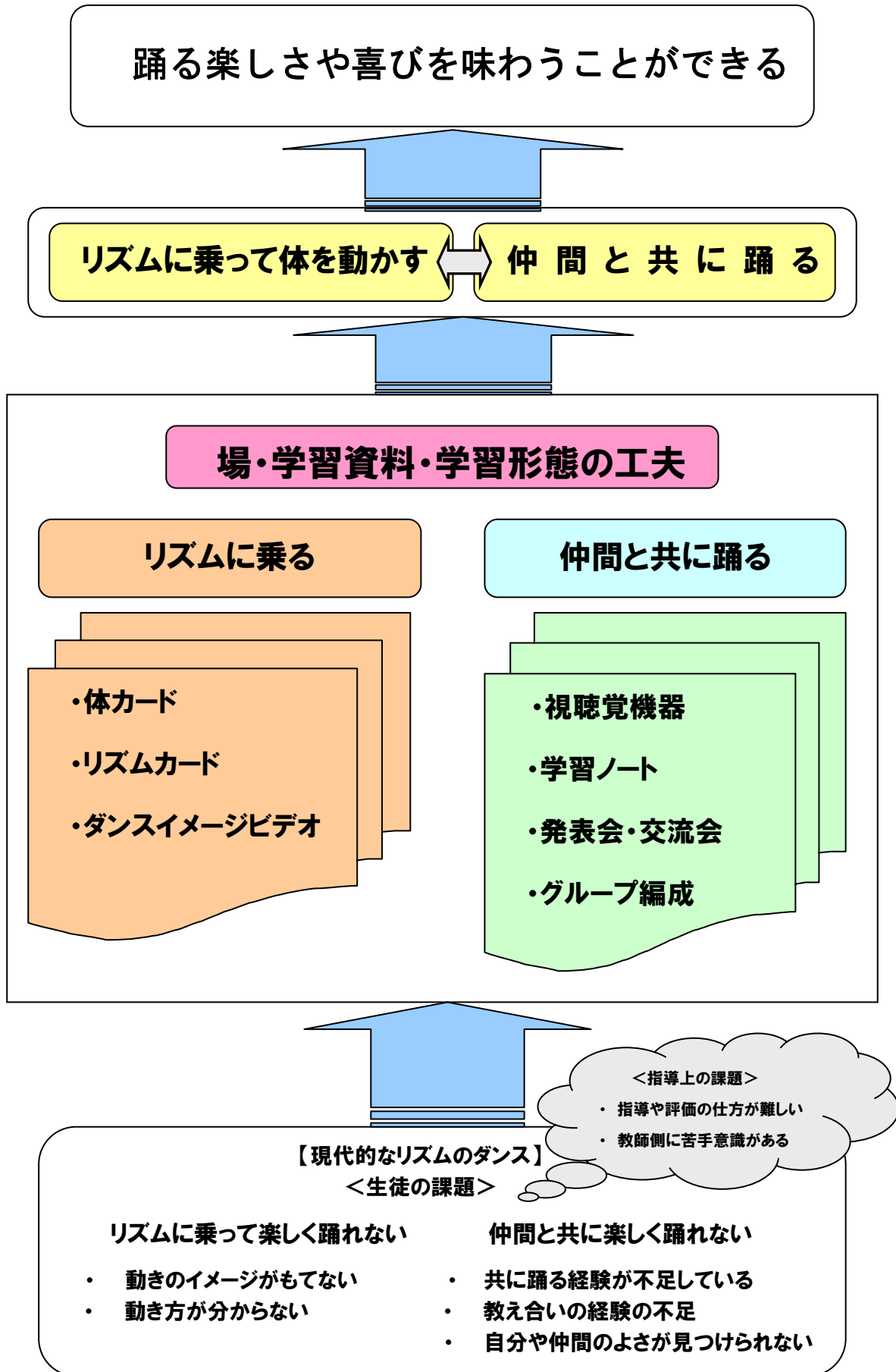
- ア ダンスについて
- イ ダンス学習における有能感
- ウ 思春期の特性
- エ 現代的なリズムのダンスについて
- オ 学習資料
- カ 音楽と体の調和について
- キ 学習形態
- ク 場の工夫

(2) 文献研究をもとに具体的な学習計画を立て、実践研究を行い、仮説の有効性を明らかにする。

- ア 事前アンケート調査・分析
- イ 検証授業
- ウ 事後アンケート調査・分析

(3) 以上の理論的裏付けと実践研究をもとに研究のまとめを行う。

5 研究の構想図



Ⅱ 理論の研究

1 ダンスについて

(1) ダンスの本質

ダンスとは人間にとって何なのか。喜びや感動の体験という視点から大別すると、次の3点があげられる。

- ① リズムに乗って思い切り汗を流し、われを忘れて踊る快感
- ② 作品を創りあげたときの完成の喜び
- ③ 観者と踊り手が一体となり溶けあった深い感動

これらはダンスの核といえる。これらの核を、1年生で踊る喜び、2・3年生で創る喜び、観る喜びと柱を立て、その本質を探ることとする。

ア 踊る喜び

リズムや音楽に乗って踊る楽しさは、すべてを忘れ、身も心も解放される。快いリズムにかきたてられて動きをゆだね、しだいに酔いに似た域にひきこまれるのである。つまり、人々に快さと高揚感をもたらし、人と人を融合させる働きをもつ。

精いっぱい身体を動かすことは、身体と心を解放させる。何度も踊っているうちに、無駄な力は省かれ、効率よい動きをみずからの身体が知り、そして、そのよい動きがみずからをいっそう快くする。つまり、習熟された動きの快感なのである。ゆえに、人々は踊るのである。活動の欲求を満足させるこの営みは、生命の本質といえるだろう。リズムはすべての舞踊運動となって機能する。それは、環境や生活習慣、労働などのかかわりあい、それぞれパターンを持ちながら、言葉とリズム、そして、身体運動と不可欠な関係をもつのである。

イ 創る喜び

「創る」ということは、たとえそれが苦難の道であったとしても、最終的に大きな喜びとなって心に残る。自分の力で創りあげた、自分が何かを成し遂げたという満足感、誰しも体験することであろう。その体験はつぎの創造へのエネルギーとなる。そして、みずからが予期しないひらめきが湧き出し、その意外さにみずからが驚き興奮を呼ぶ。この喜びや不思議な興奮は、大げさに言えば、生きている喜びといえるほど心打たれるのである。

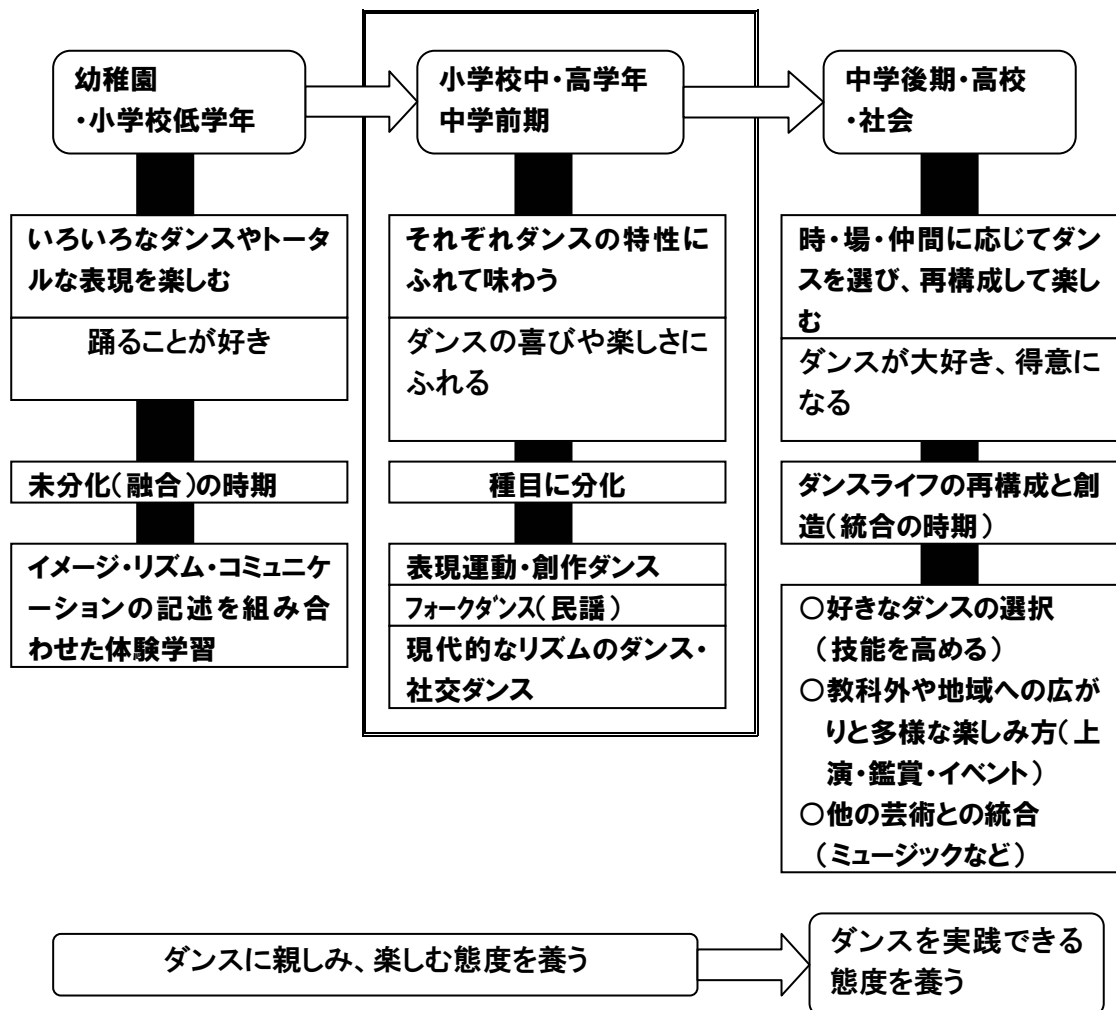
ウ 観る喜び

人は、よい作品にふれたとき、さまざまな感動の体験を持つ。一瞬、ものもいえず静かに息をのむ。発表が終わった後、ジーンと心の奥がつかなぎとめられ、少しでも長く感動のときを味わいたい、そっとしておいて欲しいと願いつつ反芻し、思索の時間を楽しむなど、芸術的な感動をひきおこす。²⁾



(2) 内容の扱い方・子どもの発達とダンスの関係（生涯学習に向けたダンス学習の発展）

子どもの発達とダンスの関係³⁾について、村田は次のように示している。今回の授業を行った中学前期の1年生の発達段階では、「ダンスに親しみ、楽しむ態度」が求められている。ダンスの喜びや楽しさにふれることにより、将来にわたって自発的にダンスを楽しむ力を育てていきたい。



2 ダンス学習における有能感
運動の自信

岡澤は、「有能感は、運動能力や運動技能を基礎として、自分ではできるんだという自信といえよう」と述べており、運動有能感の3因子を次のように示している。

- ① 身体的有能さの認知(自分ではできるんだという自信)
- ② 統制感(努力すればできるようになるという自信)
- ③ 受容感(指導者や仲間から認められているという自信)

身体的有能さの認知や受容感を切り口として、ダンス学習の中で楽しく学習に参加する子どもたちの姿を大切にしていきたい。

ダンスの学習においては、必ずしもはじめからリズムに乗って体を動かすことができる生徒ばかりではない。ダンスと聞くと、身構える生徒も少なくない。小学校であまり経験していなかった生徒がいたり、動けなかったり、動き出すまでに時間がかかったなど、何らかの理由で表現運動が楽しめなかったものと予想される。リズムに乗ることができた、体を動かすことができたとき、「自分ではできるんだ」という自信が生まれてくると思われる。この自信が、仲間づくりやかかわりに大きく関係してくる。また、仲間と一緒に楽しい、互いに教え合うことを大切にしていけることができれば、周りから認められる自信を持つことができるであろう。

3 思春期の特性

精神の発達

この時期は心理的離乳期と呼ばれ、家族との結びつきが弱まり、学校や友人といった社会との関係が青年の生活の中で重みを増してくる。それにともなって、次のような変化が現れる。「児童期はどちらかという外界の出来事に向けられていた興味や関心が自分の心の中にも向けられ、自分の容姿、能力、性格などについて周囲の仲間との比較がなされ、その上で自分の特徴が考えられるようになる。自分自身を一つの対象としてながめることができるようになるのである。自分の短所が意識されて劣等感、自己嫌悪感、羞恥を感じることもあれば、優れているところを自覚して満足したり、高揚した気分になることもある。他人が自分をどう評価しているかが気になるのもこの時期である。⁴⁾

このように、自我意識の強くなる時期に初めてダンスという自己表現活動に取り組む場合、抵抗感の大きいことはうなずける。¹⁾したがって、この時期のダンスの学習指導は、そのような発達の特徴を十分に踏まえて進めることが大切である。まず、思いっきり体を動かすことや、仲間の前で踊ることへの抵抗感を取り除き、意欲を持って取り組ませることが、中学校期のダンス指導の大きな課題となる。

ひとたび自分自身でこれでよいという表現の仕方を見つけられ、それが仲間同士で認められると感じたならば、体を使った自己表現は、精神的にも大きな満足をもたらすに違いない。⁵⁾

4 現代的なリズムのダンスについて

(1) 現代的なリズムのダンスの学習のねらい

中学校における現代的なリズムのダンスのねらい・内容は、技能・態度・学び方の視点から次のように設定することができる。

- 簡単な動きを工夫したり、まとまりのある動きを工夫したりして、仲間とリズムに乗って楽しく踊ることができる。また、互いの動きとリズムのよさを見分けることができる。
- 互いの違いやよさを認め合い、協力して工夫したり、練習したりすることができる。
- グループの課題や自己の能力に適した課題を持ち、工夫して練習したり、交流の仕方を工夫したりすることができる。

(2) 現代的なリズムのダンス評価のあり方

各時間や単元の終わりには、自己やグループの活動について振り返り、ねらいが達成されたかどうかをとらえる。ねらい・内容は技能・態度・学び方から設定されている。そこで、自己評価・相互評価を進め、達成したい課題が実現できるように、「取り組む（意欲・関心）」「かかわる（態度）」「踊る・つくる（技能）」「わかる（思考・判断）」の観点から学習を振り返る。

現代的なリズムのダンスでは、音楽のビートやリズムに乗って踊れることや、友達とまとまりのある動きを工夫し合ってさらに楽しめるダンスにすることができたり（技能）、また、動きや取り組みのよさがわかったり（思考・判断）、グループやクラスの友達と一緒に動きやリズムの楽しさを共有して踊れるか（態度）を評価する。

また、学習の進め方を理解し、課題をもって自発的に学習を進めていく態度や学び方を評価することが大切である。

「交流タイム」や「交流広場」での見せ合いや交流の活動は、取り組んだダンスを踊って、できばえを確かめるまとめの活動である。具体的には、評価項目をチェックしたり、グループ間やメンバー間で感想を言い合ったり、一言プレゼントカードを交換したりして評価を行う。子どもも4観点から学習全体を総合的に評価する視野や考え方を育てることが大切である。簡単な方法で、しかも具体的に評価できる学習カード・資料等を工夫して、成果の確認や、次時の学習のめあてを導けるようにする。⁶⁾

(3) 新学習指導要領におけるリズムダンスの位置づけ

新学習指導要領では、小学校が「リズムダンス」、中学・高校が「現代的なリズムのダンス」と、両者の名称が異なっている。しかし、名称は異なってもその特性と「現代的なリズム」として取り上げる音楽の範囲も基本的に同じである。異なっているのは、子どもの発達や学習経験に応じて、指導の重点（特性の捉え方）が変わってくるという点である。

小学校では、乗り方がやさしくて弾んで踊れる軽快なロックやサンバのリズムを取り上げ、リズムに乗って「弾んで踊る」体験を中心に、いろいろなリズムで友達と自由にかかわって即興的に踊る体験を大切にしたい。

中学・高校へと学習経験が進むにつれ、小学校で経験したロックやサンバに加えて、乗り方のやや難しいヒップホップなどのリズムを取り上げてレパートリーを広げたり、好きなリズムや曲を選んで、一曲にオリジナルの振り付けを工夫するといった学習の発展が考えられる。

このように発達に応じて学習は発展していくが、小・中・高校を通して大切にしたいことは、音楽のリズムに乗って「弾んで踊る～自由に踊る～友達とかかわって踊る」という特性のベースとなる3つである。¹⁾

5 学習資料

学習ノート・学習カード、教育機器は、形態は異なるが、子どもが円滑に学習を進めることを助ける学習の資料である。学習資料には、学習者が記録や達成の状況などを実際に記録していく記録カード、学習の仕方や練習の仕方に関する印刷物や資料、運動のポイントや技を説明するための写真やVTR、パソコンソフトなどの視聴覚機器を利用したものがある。

これらの学習資料に共通するのは、学習者が現在持っている力を知って、具体的な学習の課題を決めたり、練習の仕方や作戦を工夫したりして、自分たちのできばえや活動の進め方を評価するための手がかりを見つけていくために用いられる点にある。³⁾

(1) 体育の学習ノートの機能

学習ノートは、子どもが円滑に学習を進めることを助ける学習の資料・材料である。これは、学習者が現在持っている力を知って、具体的な学習の課題を決めたり、練習の仕方や作戦を工夫したり自分たちでできばえや活動の進め方を評価していく手がかりを見つけていくために用いられる。学習をより活発にし、自発的、自主的に学習の内容を深めていくために、欠かせない学習資源である。

学習ノート作成の留意点

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 学習のねらいや道すじにあっていること② 子どもたちがいま持っている自分の力を知り、さらに次の挑戦する課題を選択しやすいことまた、自分のめあてを決定しやすいこと③ 書くのに時間がかからずわかりやすいこと④ ノート形式であること |
|---|

学習ノートを作成し、子どもたちに記入させるには、ノートを使う目的を明確にしておくことが大切である。³⁾

(2) 教育機器

教育機器とは、学習指導等に用いる機械・器具で、スライドや映画のようにどの教科でも利用することができ、それがないと授業ができないことはないが、利用することにより、教育効果を高めることができるものである。

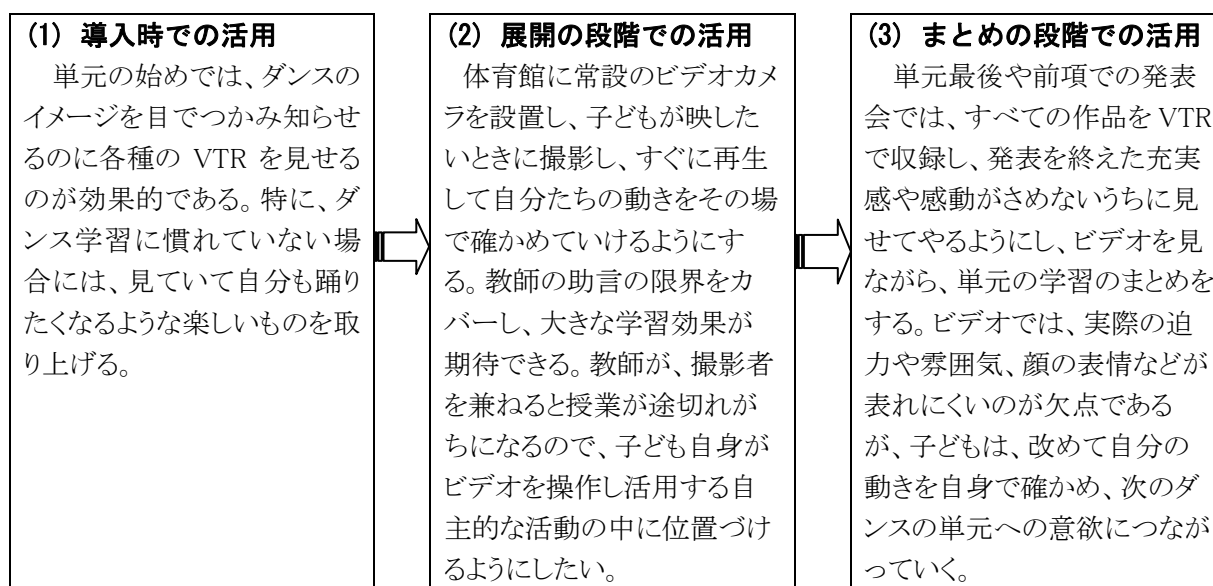
教育機器の中には、映像や音声など視聴覚的な教育方法により、学習者の直接経験の不足を補

い、学習の具体化を図る視聴覚教材や記録したものを運動や授業の観察・分析の資料を得るために利用する記録機材などがある。³⁾

ア ダンス学習における視聴覚器材の活用について

ダンス学習における視聴覚教材の活用について、村田は次の表のように示している。³⁾ 今回の授業の中では、導入時にダンスイメージビデオを見せ、展開していく中で体育館に常設してあるビデオカメラを用いて、踊りながら自分の踊っている姿を大きなスクリーンで見ることができるようにした。

また、VTRによって撮影された自分たちの姿を再度スクリーンで見ることによって、動きのよさに気付いたり、仲間のよさを見つけられたりすることができるようにした。



(3) リズムダンスと音楽の関係

音楽は、人間の感情を刺激することで、①枯れてしまった感情を誘発させる、②うっせきした感情を発散させる、③高ぶった感情を沈静化させる、④励ましたり、慰めたりできる、などの作用があるという。幼児が音楽ひとつで自然にリズムをとって踊り出す姿を見れば、リズムに誘発されリズムに乗って踊る楽しさは、人間が生まれながらに持っている「律動の快感」に根ざしていることが分かる。これがリズムダンスの「踊る原点」としての重要な側面といえる。¹⁾

ダンス学習における音楽の存在は、踊る気分を高め、変身を容易にすると同時に、表現的なイメージを豊かに触発し、自然に動きをリズムカルにして起伏（緩急・強弱）をつくるのに大きな力を発揮する。音楽一つで、自然にあるフィーリングやイメージを感じながら踊ることができ、教師の指導（太鼓の伴奏や言葉かけ）以上の力を発揮する。音楽という聴覚的な刺激が、言葉や映像以上に効果的に身体に働きかけることは、多くの人が指摘していることである。

また、現在の子どもの音楽に対する関心は無視できないほど大きくなっている。彼らの意識は、むしろ「ダンス=音楽」に近いといえよう。子どもの音楽に対する欲求や優れた感性を積極的に生かして、ダンスと音楽の関係を押さえ、上手く音楽を活用していく方法を工夫していくことが大切である。³⁾

リズムダンス（現代的なリズムのダンス）は、音楽やリズムが踊る誘発材料となり、リズムへの乗りが特性となるダンスであり、その意味でとりわけ音楽との関係が深いダンスといえる。

リズムダンスの内容となる現代的なリズムとして捉えられる音楽は、1950年代に生まれた

8ビートを基調としたロックンロール（ロック）から派生・発展したものであり、その後、ソウル・ファンク・ディスコなどを経て、今日のダンス音楽の主流であるヒップホップなどへと至っている。

これらの音楽に共通している要素は、いずれも「メロディーやハーモニーよりもリズム/ビートが主導的な役割を担っている」ということである。こうしたリズム/ビート主体の音楽は、そのほとんどが西アフリカの黒人音楽を起源とし、人間の原始的なエネルギーを表現する行為として発生したものである。現在ロックやヒップホップと同様に親しまれているサンバやレゲエなどのラテン系のリズムもアフリカを起源とした音楽であり、それがより現代的にアレンジしている曲が多い。

このように、現代的なリズムの特徴は、強いビート（打ち込み）と体を乗せやすいアフタービート（後打ちのリズム）にあり、それは人間が本来的に持つ「律動の快感」を生むと考えられる。したがってリズムダンスは、時代の「今」の感覚と流行のファッションに彩られながら時代とともに新しく生まれるダンスであるとともに、その根底には原始から面々と継承されてきた人間本来の踊る欲求に根ざしたダンスであるといえよう。¹⁾

6 音楽と体の調和について

音楽教育として生まれたリトミックは多様な教育的要素を持っている。音楽教育は、人間の心と身体の発達段階を考慮して行うべきだと提唱したダルクローズは、いろいろな研究を重ねた結果、音楽運動にリズム運動を取り入れた。すなわち「体で覚える」ということである。手以外の身体の部分、足の動き、胴体や頭の揺れ、体全体を動かす、などによって作りだされる反応の学習で、リズムの本質に関する音楽的感動は、体全体の筋肉と神経組織を呼び覚ますということを見出した。⁸⁾リズム音楽を聞く、歌う、演奏する、作るといった音楽教育で学ぶすべてのことを、体を動かす経験を通して感じとっていくのがリトミックの教育法である。

子どもたちは音楽に合わせて「イメージづくり」をする。ダイナミクス(強い→弱い)やテンポ(速い→遅い)、スペース(空間の広がり)などを感じ取っていく。子どもたちにとって、ことばや絵で説明されることより、自分の体を使って感じ取っていくことが最ものもぞましいといわれている。

リトミックで行う項目

- 動きの基礎練習・・・自己の意思で動かせるすべての体の部分(頭、肩、腕、手、胴、足、)を動かす経験をする。音楽に合わせてたりまたは音楽なしで動かしたりする。
- 拍子……………音楽に合わせてあらかじめ決められた動作で動き拍子感を養う。(手合わせ・スイング・ダンス・肩たたきなど)*その後音楽を聞き、拍子を聞き分け、その表現を即時的に行う。
- 基礎リズム……………2拍子の基礎的なリズムから導入し3拍子・4拍子と進んでいく。歌唱によるリズムの把握・リズムカードによる理論的な把握・ピアノのリズムを聞き、リズム表現やステップなどをしながらリズムを理解する。
- オスティナート……………手とステップ、ステップと手などリズムと拍の組み合わせを表現する。
リズム 例:手拍子・ステップ・手のリズムと足のリズムを合図により変えるなどしてリズムの分析能力や即時反応力を高める。

「リズム唱」「リズム動作」は、音楽の導入期にリズム言葉や動作をつけることにより、楽しくリズムを理解させることが目的である。本来はリズムに呼び方や決められた動作をつけるべきではないかも知れないが、ここでのリズム唱、リズム動作は、幼児ないし初心者がリズムを正しく感じられるようになるまでの方法と理解する。リズムがよくわかってきた時点でいろいろな呼び方でもよい。⁹⁾

●リズム唱



●リズム動作



リトミックは音楽教育ではあるが「リズムの本質は体全体の筋肉や神経組織を呼び覚ます」という考え方はダンスに共通するものがあると思われる。リトミックはイメージをどんどんふくらませていける自由な空間であり、ダンスも同じような自由な空間であると考えられる。

7 学習形態

体育の学習形態は、運動学習の特性から、学習者相互の人間関係のあり方や学習者と教師との関係のあり方によって分類する考え方が一般的である。すなわち、一斉学習、班別学習、グループ学習および個別学習の分類である。一般に、一人の教師が一つの体育学級を担当して授業が進められるが、その中で学習者が個人としてとらえられるか、集団としてとらえられるか、またはその集団の大きさや機能はどうかという観点であり、その中に学習者と教師の関係、学習者相互の関係を組み入れて、授業のあり方を明確にする意図が含まれている。¹⁰⁾

(1) ダンスの学習形態の工夫について

ア ペア学習

望ましい人間関係のあり方をよりどころに、運動の特性に触れる学習をより効果的に図ろうとすることをねらいに、二人で学習活動を展開する学習の仕方をペア学習という。教え合いや励まし合いの活動をあげることが多い。

イ グループ学習（小集団学習）について

形態的な特徴は、体育学級をいくつかの小集団に分け、教師はグループごとに指導する形態である。グループ内の学習者相互の間の密接なコミュニケーションが重要視される。それは学習の主体を学習者におき、メンバー相互の教え合い・助け合いによって、自主的・協力的に学習を進めることをねらっている。¹⁰⁾

ウ イメージや動きの発想を刺激する小集団活動

個と集団の創造的な機能が発揮されるのは、自由で密度の濃い交流が可能な小集団においてであろう。特に、小集団学習は学習の基本的な単位となるので、柔軟な集団づくりと活動を進めて、個と集団の関わりがスムーズに進むように運ぶことが重要である。

1時間の学習では、1人で活動を進めたり、できるだけ少人数(2～3人)の集団を活動の単位とすることで、一人ひとりがアイデアや動きを工夫したり提案したりする経験が得られるようにする。また、友だちのイメージや動きを一緒に動いてみることによって、自分とは違った友達の工夫に触れ自分を広げられるようにする。グループは固定せずに、毎時間、新しいメンバーで学習を進めると、多くの仲間とふれあい互いの理解を広げることができるし、一人ひとりが着想や動きの可能性を広げる機会を増やすことができる。このような効果を上げることのできる小人数の流動的なグループによる活動は、単元や1時間の前半の狙いに合った集団づくりの活動であると考えられる。¹²⁾

エ 個と集団の機能について

松本はダンスにおける学習と個の集団の機能について、次のように述べている。グループ表現では1人では実現できない表現世界を味わうことができ、個の高まりが実現されるであろうし、また、個の学習が抵抗なく進められたり、個の力をさらに伸ばすことができたり、仲間の力が生かされている。

このように、ダンス学習では個や集団の協同が大変重要であるので、一人ひとりのダンスの本質に触れた喜びや技能の高まりを期待するためには、個を生かし集団の機能を生かした活動の工夫を進めることが大切である。¹¹⁾

8 場の工夫

(1) 発表会・交流会について

リズムダンスは、見ているよりも踊るほうが面白い「参加体験型」のダンスである。授業では、発表会に代わる活動として「交流会」が重要な意味を持つ。¹⁾

友だちの動きのよさが分かり共感し合える「見せ合う学習」や学習の成果を「発表会や交流会」に発展させ、生徒が交流しあえる機会を工夫していくことが重要になってきている。

交流の仕方には、次のようにいろいろな形式がある。

いろいろな交流の仕方

- ・ お互いの踊りを交流して踊る(ワークショップスタイル)
- ・ 同じ曲の中で、主役と脇役を交代して踊る(分担スタイル)
- ・ お互いの踊りを次々と交代して踊る(メドレー形式)
- ・ リズムへの乗りを競いあって踊る(バトル形式)

(2) 場の工夫について

曲のリズムをとらえて体全体で踊るためには、曲のリズムを感じながら夢中になって踊る場を設定することが必要である。体に響いてこない小さな音、こもった音、割れた音の中では、夢中になって踊ることはむずかしい。授業者は、音響に対して最も神経をはらい、曲のリズムや特徴を感じられるような音響を準備することが大切である。³⁾

Ⅲ 検証授業の計画

1 検証の視点

現代的なリズムのダンスの学習において、場・学習資料・学習形態の工夫をすることにより、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができたか。

2 検証の方法

- | | | |
|---------|---|---------|
| (1) 期 間 | 平成 16 年 9 月 21 日(火)～11 月 2 日(火) | 10 時間扱い |
| (2) 場 所 | 厚木市立厚木中学校 | |
| (3) 対 象 | 第 1 学年 1・2 組(女子 37 名) | |
| (4) 単元名 | ダンス「現代的なリズムのダンス」 | |
| (5) 方 法 | ア 事前アンケート調査・分析
イ 単元指導計画の立案
ウ 学習指導案のもとに授業の実践
エ 学習カードの内容・記述の分析
オ VTR の記録・分析
カ 事後アンケート調査
キ その他 | |

3 学習指導計画

(1) 現代的なリズムのダンスの特性 ¹²⁾

ア 機能的特性

現代的なリズムのダンスは、子どもたちに親しまれているロックやサンバ、ヒップホップなどのダンス音楽やポピュラー音楽に乗って踊られる。ビートに乗って心や体を弾ませて踊る喜びや仲間とリズムや動きを共有して踊る喜びがある。また、リズムの取り方や動きを工夫して踊るが、自分なりの動きの世界で思いのままに踊り続けたり、自分らしさをアピールしたりして踊れると喜びが増す。

イ 構造的特性

現代的なリズムのダンスはロックやサンバ、ヒップホップなどの現代的なリズムの音楽に乗って、自由にリズムの取り方や動きを工夫して踊り、仲間と交流するダンスのことである。「現代」に息づいている「踊る喜び」を大切にしながら、特定のダンススタイルを意味するものではない。

現代的なリズムのダンスでは、ビートに乗ったり崩したりして体を動かし、心地よいリズムをつくり出して踊る。その際には、体の部分や全身の動き、相手とのかかわりあいを生かして踊る動きなどで弾んだり回ったりして踊る。また、楽しくリズムに乗れるように、拍子のビートに合わせて短い動きをくり返して踊ることからはじめ、さらに前拍や後拍(アップ&ダウンビート)、休止や倍速、3連拍などの変化を加えたリズムで踊ると楽しさが増す。また、仲間と踊りあって、動きやリズムを交流させるところにも特徴がある。

ウ 効果的特性

現代的なリズムのダンスは、心地よい音楽のリズムやリズムカルな体の動きが特徴である。こうした運動特性は心身にかかわる次のような効果をもたらすと考えられる。

- ・全身や体の部分を使って弾んだり揺れたりすることから、心身が解放される。
- ・仲間と動きやリズムを共有する体験から、仲間との親しいかかわりや一体感が味わえる。
- ・リズムカルに体を動かしたり、協応的な動作ができるようになる。

エ 生徒から見た特性

現代的なリズムのダンスは、ロックやヒップホップなどの現代的なリズムに乗って自由に踊ることが楽しい運動である。音楽のリズムやビートに心も体も溶け込みながら、リズムと動き(乗り方)の多様なかかわりのおもしろさがあり、相手と自由にかかわって踊る楽しさを味わうことができる運動である。しかし、恥ずかしさがあったり、リズムに乗って体を動かすことができなかつたりするという面もある。

(2) 学習のねらい

- 現代的なリズムのダンスの特性に関心を持ち、仲間とリズムに乗って踊る楽しさを共有することができるようにする。また、互いの違いやよさを認め合い、協力して練習したり工夫したりすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- 自己の能力に適した課題の解決に向けて、練習の仕方や交流の仕方を工夫している。また、自分や仲間の動きや取り組みのよさがわかる。【思考・判断】
- 音楽のリズムやビートに乗って踊ることや、仲間とまとまりのある動きを変化させてさらに楽しめるダンスにすることができる。【技能】
- 現代的なリズムのダンスの特性や学び方を理解するとともに、交流の仕方や鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けている。【知識・理解】

(3) 学習の道すじ

ア ねらい1

- ・簡単な動きでリズムに乗って楽しく体を動かす。

イ ねらい2

- ・まとまりのある動きで自由にリズムに乗って楽しく踊る。
- ・見せ合ったり一緒に踊ったりして、互いの踊りの楽しさを分かち合う。

(4) 学習指導の工夫について

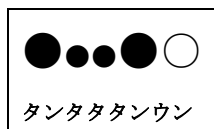
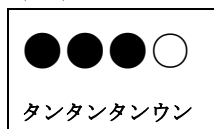
ア リズムに乗るための工夫

リズムに乗るために、導入の段階で音楽に合わせて手拍子でリズムをとらえ、動かせる体の部分(首・肩・腕・へそ・腰・膝)を動かす学習をした。リズムに乗っている状態とは、体幹部(おへそ)でリズムを取り、体幹部(おへそ)を中心に手足はしなやかな鞭のように弾んで踊り、音楽と体が一体になっている状態である。

(ア) ダンスイメージビデオ

単元の最初に、現代的なリズムのダンスのイメージを好意的につかませるために、過去の映画の中に出てきたダンスシーンから数種類の映像と、幼児が曲に乗って自由に動いている場面を編集したものを鑑賞し、現代的なリズムのダンスに対して、意欲の高まりや理解が深まるようにさせる。

(イ) リズムカード



ねらい1や新しいリズムで踊る活動の導入として、体でリズムをとらえるためにリズムカードを使い、手拍子でリズムをとらえる。リズムカードを使い、仲間とかかわり一緒にリズムを重ねる楽しさを味わう。

(ウ) 体カード

くび	かた	うで	へそ	こし	ひざ
----	----	----	----	----	----

ねらい1では、体を動かすきっかけとなるように6枚の体カードを使い、体の部位を意識して動かすことができるようにする。

イ 仲間と共に踊るための工夫

仲間と共に踊るとは、まとまりのある動きを工夫して、仲間と呼吸を合わせて踊ったり掛け合ったりすることや、見せ合って互いの動きとリズムを共有しながら、楽しく交流して踊ることである。「交流する喜び」を味わうためには、仲間と動きを教え合うことや、仲間の動きを取り入れて体を動かすこと、互いのよさを見つけることが必要である。そのための工夫として、広く交流できるような段階的なグループ編成や交流会などが考えられる。⁶⁾

(ア) グループ編成

学習を進めていく中で、段階的にグループ編成を変化させ、多くの仲間と動きの教え合い・助け合いができるようにする。

(イ) 発表会・交流会

今回の授業では、お互いの踊りを共有して踊るワークショップスタイルの交流を第5時間目と8時間目に、お互いの踊りを次々と交代して踊るメドレー形式を単元の最後にそれぞれ行い、お互いの動きを共有することで踊る楽しさを味わうことができるようにする。

(ウ) 学習ノート

各時間や単元の終わりには評価項目をチェックしたり、グループ間やメンバー間で感想を述べ合ったりして、お互いに評価を行う。生徒は4観点から学習全体を総合的に、評価する視野や考え方を持つことができるようにする。

(エ) 視聴覚機器

ビデオカメラを用いて、踊りながら自分の踊っている姿を大きなスクリーンで見ることによって、自分や仲間の動きのよさに気付いたりすることができるようにする。



ウ 音楽（使用曲）

リズムダンスにとって音楽は不可欠のものであり、選曲が授業づくりの最大のポイントとなる。リズムダンスは、音楽やそのリズムが踊る誘発材料となるため、音楽やリズムとの一体感を楽しめるように選曲をした。

分類	曲名	アーティスト名
ストレッチ	宮崎 駿コレクション 「Relaxing Piano」	
	Relaxing Orgel 「Wonderful Life」	
体ほぐしの運動	「カートゥーン・ヒーローズ」	AQUA
	「フリーダム」	ワム
	「ドゥビ・ドゥビ」	ミー・アンド・マイ
	「風になりたい」	THE BOOM
	「シェリーに口づけ」	ミシェル・ポルナレフ
	「イン・ザ・ネービー」	ヴィレッジ・ピープル
	「恋はあせらず」	ダイアナ・ロス&シュープリ
	「サンバ・DE・ジャネイロ」	ベリーニ
ロック	「君の瞳に恋してる」	シーナ・イーストン
	「ビリーブ・イン・ラブ」	ヒューイ・ルイス&ザ・ニュー
	「Hero」	ARASHI
サンバ	「ミッキー」	ゴリエ
	「アゲハ蝶」	ポルノグラフィティー
	「風になりたい」	THE BOOM
	「サンバ・DE・ジャネイロ」	ベリーニ
ヒップホップ	「ヴィラレ」	キャプテン・ジャック
	「ホット・ドッグ」	リンプ・ビズキット
	「マイ・ジェネレーション」	リンプ・ビズキット
	「Do it Now」	マイリーン
	「恋のダンスサイト」	デニーズ・ウィリアムス
	「Life goes on」	ドラゴンアッシュ
	「if」	ダ・パンプ

(5) 単元計画 (50分×10時間)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
音楽	軽快なリズムのロックで					軽快なリズムのロックで	サンバ	ヒップホップ	ロック・サンバ・ヒップホップ		
分	ねらい1 ・簡単な動きでリズムに乗って楽しく体を動かす					ねらい2 ・まとまりのある動きで自由にリズムに乗って楽しく踊る ・見せ合ったり一緒に踊ったりして、互いの踊りの楽しさを分かち合う					
0	オリエンテーション 単元のねらいと学習の流れについて					ストレッチ(音楽を聞きながら) 気付き・交流を広げるために、毎時間違う相手と行う ・上体を引っ張って ・ゆっくりと腕をまわして ・寝て上体(足)を引っ張る ・開脚で足を引っ張り合う ・リラクスマッサージ					
5	集合 挨拶 出欠確認 本時の学習のねらいと内容を確認する					集合 挨拶 出欠確認 本時の学習のねらいと内容を確認する					
10	3種類のジャンルの曲を聞いてどのように感じるか		やさしい活動を通して、リズムに乗れるように身のこなしをよくする 仲間のかかわりを広げる		体ほぐしの運動		サンバのリズムで踊りこみ	体ほぐしの運動		踊りこみ	
15	人間知恵の輪 (各クラス1班同士のペアで)		音楽に合わせて、ランニング・スキップ・ハイタッチ(2人組)		音楽のリズムに合わせて、8 8 4 4 2 2拍子で体を動かす(全員の大きな円で)		カノンリズム 床や体の部位をたたいてリズムを作り出す(4グループ)	サンバ 床や体の部位をたたいて音を出してリズムに乗る(9グループ) ・サンバステップ	力を抜く練習(大きな円で) ジャンプ・足の動き(前後左右) ・クロスステップ ・ボックスステップ		6人組 ・3曲のリズムに乗って繰り返し踊りこむ ・さらに方向や場(空間)の工夫をする
20	学習ノートの使い方について										
25	現代的なリズムのダンスの特性について、ダンスイメージビデオの鑑賞		リズムカードと体カードを4枚ずつ使って手拍子と足拍子でリズムをとらえる		リズムカードと体カードを5枚ずつ使って体全体でリズムをとらえる		前回の授業で踊ったダンスを教えあう	踊りこみ ・動きの変化をする	リズムカードを4枚使ってサンバのリズムをくずして踊る		サンバのリズムで踊った動きをヒップホップのリズムで踊る ・曲のリズムによって乗り方が違うこと気付く
30	体ほぐしの運動		2人組		4人組		8人組	8人組	4人組		8人組
35	・ジェンカ(音楽に合わせて)		4人組		4人組		8人組	8人組	4人組		8人組
40	・ストレッチ		4人組		4人組		8人組	8人組	4人組		8人組
45	学習の振り返り ・イメージビデオの感想		4人組		4人組		8人組	8人組	4人組		8人組
50	・全体で学習を振り返る		4人組		4人組		8人組	8人組	4人組		8人組
	学習の振り返り ・学習ノートの記入(自己評価とまとめ)					学習の振り返り ・学習ノートの記入(自己評価とまとめ)					
						発表会 ・大きな円になり他の班の良さを見つける					
						交流会 ・模放しながら一緒に踊り、動きを共有する楽しさを味わう					

(6) 評価計画

ア 学習のねらい (単元目標)

- 現代的なリズムのダンスの特性に関心を持ち、仲間とリズムに乗って踊る楽しさを共有することができるようにする。また、互いの違いやよさを認め合い、協力して練習することができるようにする。
- 自己の能力に適した課題の解決に向けて、練習の仕方や交流の仕方を工夫している。また、自分や仲間の動きや取り組みのよさがわかる。
- 音楽のリズムやビートに乗って踊ることや、仲間とまとまりのある動きを工夫し合ってさらに楽しめるダンスにすることができる。
- 現代的なリズムのダンスの特性や学び方を理解するとともに、交流の仕方や鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けている。

ダンスの評価規準 (国立教育政策研究所「評価基準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」2002) ¹³⁾

評価の観点	評価規準
運動への関心・意欲・態度	○ダンスの特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり発表したりしようとする。
運動についての思考・判断	○グループの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫している。
運動の技能	○自分の感じ方や工夫を率直に表現し、感じを込めて踊ったり、みんなでかかわりをもって踊ったりすることができる。
運動についての知識・理解	○ダンスの特性や学び方、歴史を理解するとともに、交流の仕方や鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けている。

現代的なリズムのダンスの評価規準

評価の観点	評価規準
運動への関心・意欲・態度	○思い切り動く、感じを込めて動く、リズムに乗って動く、みんなでかかわりをもって動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとする。 ○互いの動きのよさ、感じ方などを認め合って、誰とでも楽しく踊ろうとする。 ○互いの動きをよりよくしようと協力しながら、進んで練習や発表を行おうとする。
運動についての思考・判断	○自分の能力に適した課題をもち、その解決を目指して、踊って確かめたり、見せ合ったりして動き方を選んだり、動きを見付けたりしている。 ○踊り込みでは、リズムに合った動きを構成したり、踊り方の課題をとらえたり、動きに変化を付けたりしている。 ○見せ合いや発表では、よいところを感じ取って成果を確かめ合っている。
運動の技能	○仲間とリズムに乗って楽しく踊ることができる。
運動についての知識・理解	○リズムの違いによる体の動かし方の違いが言えたり書けたりする ○学習資料の活用の仕方が言えたり書けたりする。 ○学習ノートの使い方を言えたり書けたりする。

(イ) 観点別 5 段階評価の判断の基準

関心・意欲・態度	A○	現代的なリズムのダンスの学習にねばり強く取り組み、また、率先して仲間への励ましの声かけやアドバイスをしたり、仲間からの声かけを自ら求め、聞き入れたりすることができる。また、仲間の状態についても率先して確認するなど、あらゆる場面において仲間と協力し練習や交流をしようとしている。
	A	現代的なリズムのダンスの学習に自ら進んで取り組み、また、仲間からの声かけを聞き入れたりすることができる。仲間の状態についても確認するなど、仲間と協力し練習や交流をしようとしている。
	B	現代的なリズムのダンスの学習に取り組み、また、仲間からの声かけを聞くことができる。仲間と協力し練習や交流をしようとしている。
	C○	現代的なリズムのダンスの学習に指示があれば取り組む。また、決まった相手と練習や交流をしようとする。
	C	C○に到達していない段階。(現代的なリズムのダンスに関心が薄く、踊る楽しさや喜びを味わおうとしていない。また、仲間と関わろうとせず、仲間と協力し練習や交流をしようとする意識がない。)
	C○Cへの手立て	活動が消極的な場合は、「学習ノート」や「声かけ」などの機会を使い、なぜ興味が持てないのかを明らかにし、学習の目標を明らかにする。また、集団に対しては、他人をからかったり、中傷したりせず、よい点を認め合う受容的な雰囲気づくりに心がける。
思考・判断	A○	グループの課題や自分の能力に適した具体的な課題を見つけ、その課題解決を目指した活動の仕方を常に工夫している。また、動きを工夫するなどの練習ではリズムの取り方を工夫したり、動きに変化をつけたりして踊ろうとすることができる。見せ合いや交流では、リズムのとり方や動き方についてのよいところを具体的にあげ、その理由(ポイント)が理解できている。また、成果を確かめ合って踊り方の修正をしたりしている。
	A	グループの課題や自分の課題を見つけ、その課題解決を目指した活動の仕方を工夫している。また、動きを工夫するなどの練習ではリズムの取り方を工夫したり、動きに変化をつけたりして踊ろうとすることができる。見せ合いや交流では、リズムのとり方や動き方についてのよいところを具体的にあげられる。また、成果を確かめ合っている。
	B	グループの課題や自分の能力に適した課題を選んで、その課題解決を目指した活動をしている。見せ合いや交流では、リズムのとり方や動き方についてのよさがわかる。
	C○	グループの課題や自分の課題を時々選んでいる。また、見せ合いや交流では、自分や仲間の動きのよさがおおまかにわかる。
	C	C○に到達していない段階。(グループの課題や自分の課題を見つけられていない。見せ合いや発表では、自分や仲間の動きのよさがわからない。)
	C○Cへの手立て	「学習ノート」や「声かけ」などの機会を使い、振り返る視点を具体的に示し、課題を見つける方法や課題を解決する方法を問いかけながら、選ばせたり、見つけさせたりする。仲間や他のグループの課題や解決方法を参考にしながら例示したりする。

運動の技能	A○	動き出しのときに、すぐにリズムやビートに乗って自由に踊ることができる。まとまりのある動きを工夫するときに、一人ひとりの能力を生かせる動きや相手と対応する動きなどを取り入れながら、仲間とリズムに乗って踊ることができる。
	A	リズムやビートに乗って自由に踊ることができる。まとまりのある動きを工夫するときに、相手と対応する動きなどを取り入れながら、仲間とリズムに乗って踊ることができる。
	B	学習資料や仲間の踊りを見ながらリズムやビートに乗って踊ることができる。まとまりのある動きを工夫するときに、相手の動きなどを取り入れながら、仲間とリズムに乗って踊ったりすることができる。
	C○	リズムやビートに乗って踊ろうとしているが、立ち止まることがある。
	C	C○に到達していない段階。リズムやビートに乗れず、動きが止まってしまう。
	C○Cへの手立て	リズムのとり方を確認し、繰り返し取り組ませる。動きやすいビートとテンポで簡単なリズムで乗ることから徐々にリズムのとり方や乗り方に変化を加えさせる。
知識・理解	A○	リズムの違いによる体の動かし方の違いが具体的に説明できる。また、学習資料の活用の仕方を理解し具体的に説明できる。学習ノートを使い方が分かり、自己やグループの課題を立てることに役立てている。
	A	リズムの違いによる体の動かし方の違いが説明できる。また、学習資料の活用の仕方を理解し説明できる。学習ノートを使い方が分かり課題を立てることに役立てている。
	B	リズムの違いによる体の動かし方の違いを書き出すことができる。また、学習資料の活用の仕方がわかる。学習ノートを使い方がわかる。
	C○	リズムの違いによる体の動かし方の違いを断片的に書き出すことができる。また、学習資料の活用の仕方が十分でなく、学習ノートを使い方が断片的である。
	C	C○に到達していない段階。リズムの違いによる体の動かし方の違いを書き出すことができない。また、学習資料の活用が十分でなく、学習ノートを使い方がわからない。
	C○Cへの手立て	「学習ノート」や「声かけ」などの機会を使い、現代的なリズムのダンスの特性について説明をしながらその内容が言えるようにする。

4 検証の視点と手がかり

検証の視点

「現代的なリズムのダンス」の学習において、場・学習資料・学習形態の工夫をすることより、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができたか。

目指す生徒の姿	具体的な視点	手がかり	方法
(1)リズムに乗って体を動かすことができる	ア ダンスイメージビデオの視聴により、現代的なリズムのダンスに対する意欲の高まりや理解の深まりが見られたか	(ア) ダンスビデオにかかわる学習ノートの内容記述	○学習ノートの記述分析
	イ リズムカード・体カードでリズムに合わせて動くことができたか	(ア) 学習ノート「リズムに合わせて動くことができましたか」の4段階評価と生徒の活動の様子	○学習ノートの自己評価の分析 ○VTR分析
		(イ) リズムカードにかかわる事後アンケートの3段階評価と事後アンケートの内容記述	○事後アンケートの評価と内容記述の分析
		(ウ) 体カードにかかわる事後アンケートの3段階評価と事後アンケートの内容記述	○事後アンケートの評価内容記述の分析
(2) 仲間と共に踊ることができる	ア 仲間と動きを教え合うことができたか	(ア) 学習ノート「仲間と動きを教え合うことができたか」の4段階評価	○学習ノートの自己評価の分析
	イ 仲間の動きを取り入れて、体を動かすことができたか	(ア) 学習ノート「仲間の動きを取り入れて、体を動かすことができたか」の4段階評価	○学習ノートの自己評価の分析
	ウ 自分や仲間のよさを見つけることができたか	(ア) 学習ノート「自分や仲間のよさを見つけることができたか」の4段階評価	○学習ノートの自己評価の分析
		(イ) プロジェクターにかかわる事後アンケートの3段階評価と事後アンケートの内容記述	○事後アンケートの評価内容記述の分析
(3) 踊る楽しさや喜びを味わうことができる	ア 仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができたか	(ア) 学習ノート「仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができましたか」の4段階評価	○学習ノートの自己評価の分析
		(イ) 事後アンケート「いろいろな人とダンスを踊ることについてどう思ったか」の記述	○事後アンケート内容記述の分析
	イ ダンスの学習を通して、踊る楽しさや喜びを味わうことができたか	(ア) 学習ノート「恥ずかしがらずに思いっきり体を動かすことができましたか」の4段階評価と事後アンケートの3段階評価と記述から	○学習ノートの自己評価と事後アンケートと内容記述の分析

		(イ) 学習ノート「楽しんで踊ることができましたか」の4段階評価	○学習ノートの自己評価の分析
		(ウ) 事後アンケート「ダンスの学習を通して踊る楽しさや喜びを味わうことができましたか」の3段階評価と事後アンケート「10回の授業を振り返って」の感想	○事後アンケートの評価の分析 ○事後アンケート内容記述の分析

IV 検証授業の結果と考察

1 分析・考察を進めるにあたって

研究主題に迫るため、検証授業から得られた資料をもとに、検証の視点に沿って分析し、考察していくことにする。なお、分析・考察を進めるにあたり、次の点について説明する。

(1) 図・表の対象人数およびアンケート・自己評価票について

文中に出てくる図表のデータについては、特に断りのない場合は次のとおりである。

ア 検証授業の対象人数

女子37名

イ 各時間の人数

時間(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数(人)	35	36	33	33	33	36	36	35	35	34

ウ 事前・事後アンケートの対象人数 36名

各項目について「はい」「どちらでもない」「いいえ」の3段階で回答させ、それぞれの評価の割合と人数を示した。

n=36

エ 学習ノートの自己評価票について

各項目について「大変そう思う」4点、「そう思う」3点、「あまり思わない」2点、「ぜんぜん思わない」1点の4段階評価とし分析した。それぞれの評価の割合と人数を時間ごとに示した。

(2) 学習の経過について

当初の計画では、毎時間違う仲間とグループをつくり踊り合うこととしたが、ねらい1の簡単な動きでリズムに乗って楽しく動くことを意識させるため、2人組のペアをくずさずに4人組となった。また、4人組グループをくずさずに8人グループとなって、お互いの動き教え合う活動とした。ねらい2ではまとまりのある動きで自由にリズムに乗るために、踊り合いでは動きの変化を加え、見せ合ったり、一緒に踊ったりした。

(3) 主な学習活動について

ア オリエンテーション (1時間目)

体育館において、ロック・サンバ・ヒップホップの3種類の曲を聞かせ、曲から感じるイメージを学習ノートに記入させた。自分が感じたことをリズムに乗って自由に踊るダンスが現代的なリズムのダンスであることを意識させた。

また、ダンスイメージビデオでは現代的なリズムのダンスに対する意欲の高まりや理解の深まりを持たせるために、数種類の映画に出てきたダンスシーンと、幼児が音楽に乗って自由に体を動かしているシーンを編集したものを鑑賞した。

ダンスに対する動きのイメージを広げさせ、むずかしいステップでなくても曲のリズムに乗って体を動かすことができればよいことを確認した。

イ ストレッチ

学習ノートの記入が終わった生徒から2人組をつくりストレッチを行った。毎時間パートナーを変えて多くの仲間とふれあえるようにした。上体を引っ張る運動、ゆっくりと腕をまわす、寝て上体や足を引っ張る、開脚で手を引っ張り合う、リラクスマッサージと5種類の内容で行った。相手に合わせて力の加減をすることや、全身を軽くたたいたり、マッサージしたりして声を掛け合い相手の心地よいところを見つけるようにした。



ウ 体ほぐしの運動

単元の最初に、友だちと気軽にふれあい、かかわり合う活動を通して心と体をほぐすために体ほぐしの運動を行った。仲間とかかわりながら人間知恵の輪や、やさしい活動を通してリズムに乗れるように身のこなしをよくするランニングや簡単なスキップやステップなどを行った。



エ 簡単な動きでリズムに乗って楽しく体を動かす (ねらい1)

リズムを体で感じることができるようリズムカードを使った。10種類のリズムカードの中からカードを選び曲のリズムに合わせてリズムを取って体を動かした。また6種類の体カードの中からカードを選び体の部位を意識して動かせるようにした。

プロジェクターで大きなスクリーンに踊っている姿を映し出して、体の動きを客観的に見た。音楽は体が動かしやすいように、生徒が聞きなれているポップス系の曲を用いリズムを取った。



オ まとまりのある動きで自由にリズムに乗って楽しく踊る

見せ合ったり一緒に踊ったりして、互いの踊りの楽しさを分かち合う (ねらい2)

お互いの動きを教え合って一緒に踊る交流会を5時間目に行った。6時間目にはさらに踊り合いをして動きに変化を加えた。10時間目は発表会で他の班のよさを見つけたり、交流会では模倣をしたりしながら一緒に踊り、お互いの動きを共有し、仲間の動きのよさを感じ取ることができるようにした。



検証授業の実際と生徒の活動の様子

10時間扱いの第1時間目 平成16年 9月21日(火) 第1校時(8:50~9:40)				
ねらい (1) 単元全体の学習のねらいや進め方を理解し、学習の見通しを持つ。 (2) 現代的なリズムのダンスの特性を理解する。				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
5分	はじめ	1 集合・整列(ファイルと筆記用語を持つて) 2 出欠の確認をする 3 本時の学習のねらいを確認する ・学習ノートをファイルにはさむ	・「みんなの顔が見えるように集合は円をつくらうね、これから授業の最初と終わりはこの隊形だよ」固定場所は作らないが、教師を中心におへそを向けてよい姿勢をとらせる ・健康状態を確認しながら、言葉かけをする ・学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる	
35分	なか	4 単元のねらいや学習の流れを理解する ・3種類のジャンルの曲を30秒ずつ聞く 1. 「紅く燃ゆる太陽」 2. 「風になりたい」 3. 「Life goes on」  5 学習ノートの使い方を理解する 6 現代的なリズムのダンスの特性を理解する ・ダンスイメージビデオの鑑賞 7 体ほぐしの運動を行う (1) ジェンカ ★カートゥーン・ヒーローズ (2) 円形コミュニケーション ・人間イス できたら向きをかえて行ってみる ★フリーダム ・ストレッチ 大きな円、1人で 2人組で ★いつも何度でも	・現代的なリズムのダンスは、自分が感じたことを、リズムに乗って自由に踊るダンスであることを説明する ・見せ合ったり一緒に踊ったりして、互いの楽しさを分かち合うことを説明する 「自分が踊った動きを友達に教えたり、友達の動きを教えてもらったりして楽しもうね」「誰でも踊ろうとする気持ちを大切にしようね」 ・学習内容の記入方法や授業での約束事を理解させる ・体でリズムを表現することの楽しさ、運動を組み合わせることのおもしろさ、できるようになる喜びと達成感を味わうことができることを説明する ・リズムに乗って弾んで踊れるような活動をさせる ・その場で動きの確認をする ・友だちと気軽にふれあい、かかわり合う活動を通してと体をほぐさせる ・力を抜いて友だちに身を任せるようにさせる ・自分の体に気付くように助言する ・生徒の表情やペアでの活動の様子を見ながら必要に応じて助言する ・相手に合わせて力の加減して行わせる ・心も体もリラックスできたか	【知識・理解】 現代的なリズムのダンスの特性を理解することができる <学習ノート> 【意欲・関心・態度】 仲間とかかわって、楽しく動いている。<観察> 【技能】 思いっきり体を動かすことができる <観察・学習ノート>
10分	まとめ	8 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 9 挨拶	・次時の予告をして見通しを持たせる ・記入の仕方を確認する(巡回指導) ・姿勢を正しくさせて挨拶をする	

10時間扱いの第2時間目 平成16年 9月28日(火) 第1校時(8:50~9:40)				
ねらい (1)リズムカードを使って、音楽のリズムをとる楽しさを味わう (2)仲間と一緒にリズムをとる楽しさを味わい、仲間の動きのよさを見つける				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <p>1 学習ノートの記入をする</p> <p>2 本時の学習のねらいと課題を確認する</p> <p>3 集合・挨拶</p> <p>4 2人組でストレッチを行う</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る ・今日の心と体の状態をチェックさせる ・今日の目標を記入させる ・今日の心と体の状態を確認する ・学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる ・心と体をリラックスさせ、相手の体に気付かせる ・声をかけながら巡回する ・人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 	
30分	なか	<p>5 体ほぐしの運動を行う (各クラス1班同士がペアグループになり円) ・人間知恵の輪 ★君の瞳に恋してる</p> <p>6 リズムカードを使って、手拍子で音楽のリズムに乗る 手拍子と足拍子でリズムに乗る *リズムカード ★ビリーブ・イン・ラブ</p> <p>7 2人組でリズムカードを使って、手拍子と足踏みで音楽のリズムに乗る</p> <p>8 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分たちの姿を映し出す</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・円をつくり右手同士、左手同士をそれぞれつないで知恵の輪を作る ・一曲終わるまでにほどけるようにさせる ・ほどけない班には声をかけていく ・2人組を作らせる(2人組は同じ班同士で違うクラスの人となる) ・リズムカードを見て、手拍子でリズムをとらえる ・リズムがとれない生徒には声をかけていく ・教師の見本で一緒に練習する ・プロジェクターを見ながら音楽のリズムに合わせ、手拍子をさせる ・うまくリズムに乗れない生徒には声をかけていく ・違う種類のリズムカードを4枚選び、音楽に合わせて手拍子をさせる ・相手の動きのよさを見つける ・リズムカードの組み合わせは自分たちで自由に行い、4小節ずつリズムを取って動くようにさせる ・最後に自分たちで考えたポーズをとらせる ・出席番号の若い順からプロジェクターに映し出す ・自分の姿を見ながら動くようにさせる ・終わった人に自己評価、相互評価をさせ、学習ノートに記入させる 	<p>【関心・意欲・態度】 仲間とかかわって、楽しく動いている <観察・学習ノート></p> <p>【技能】 リズムに乗って体を動かすことができる <観察・VTR></p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つけることができる <学習ノート></p>
10分	まとめ	<p>9 集合し、学習カードを用いて今日の授業の自己評価とまとめを行う</p> <p>10 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をして見通しを持たせる ・記入の仕方を確認する(巡回指導) ・姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】 自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第3時間目 平成16年10月 5日(火) 第1校時(8:40~9:30)				
ねらい (1) 仲間と一緒にリズムを重ねる楽しさを味わう (2) 自由に運動を組み合わせるおもしろさを味わう				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習ノートの記入をする 2 本時の学習のねらいと課題を確認する 3 2人組でストレッチを行う  4 集合・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る ・今日の心と体の状態をチェックさせる ・今日の目標を記入させる ・心と体をリラックスさせ、相手の体に気付かせる ・声をかけながら巡回する ・人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする ・今日の心と体の状態を確認する ・学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<ol style="list-style-type: none"> 5 体ほぐしの運動を行う <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で手をつないで曲のリズムに乗って弾みスキップして移動 ・出会った相手とハイタッチ ・手をつないで交互にジャンプ ・手をつないで回転 ・2人組で手をつないでスキップ ・出会った相手とじゃんけんして負けたら馬とび3回 ・2人組で手をつないでスキップ ・出会った相手と4人組を作って座る <p>★風になりたい</p> 6 4人組でリズムカードと体カードを使って、体の各部位を音楽のリズムに乗って動かす。 <p>★HERO</p>  7 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分たちの姿を映し出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って弾んで踊る活動をさせる ・軽快な音楽のリズムに合わせて、教師の働きかけで全身をほぐす ・教師の言葉かけに素早く反応して動きを起こさせる ・動きの流れを大切に、活動が途切れないように助言をしていく ・誰とでもかかわりあえるようにさせる  <ul style="list-style-type: none"> ・グループで好きなカードを4枚ずつ選んでリズムに乗って大きく動くようにさせる ・グループで場所に分散、選んだカードを壁に貼らせる ・リズムを体全体でとらえさせる ・動きやすいカードに変えてもよいことを告げる ・体の位置部分の多様化をさせる ・人間関係をくずさせる(はなれたりくついたりさせる) ・自分の姿を見ながら動くようにさせる ・踊り終わった人から自己評価、相互評価をさせ、学習ノートに記入させる 	<p>【関心・意欲・態度】 仲間とかかわって、楽しく動いている <観察・学習ノート></p> <p>【技能】 仲間とリズムに乗って動いている<観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つることができる <学習ノート></p>
10分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 8 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 9 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をして見通しを持たせる ・記入の仕方を確認する(巡回指導) ・姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】 自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第4時間目 平成16年10月 7日(木) 第2校時(9:40~10:30)				
ねらい (1)リズムカードと体カードで体の部位を思いっきり動かす楽しさを味わう (2)ロックのリズムに乗って体を動かす楽しさを味わい、仲間のよさを見つける				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習ノートの記入をする 2 本時の学習のねらいと課題を確認する 3 2人組でストレッチを行う 4 集合・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る ・今日の心と体の状態をチェックさせる ・今日の目標を記入させる ・心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる ・声をかけながら巡回する ・人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする ・今日の心と体の状態を確認する ・学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<ol style="list-style-type: none"> 5 体ほぐしの運動を行う <ol style="list-style-type: none"> ①円になってリズムに乗って手合わせ ②スキップ 88442222で前後に移動 ③ゆらす(腰はツイスト) ④手をつないでランニング 8844222で左右に移動 ⑤手をつないで跳ぶ 88442222で前後・左右 ⑥たたく(肩・肩・膝・膝・足裏・足裏) <ol style="list-style-type: none"> ①~⑥まで繰り返し <p>★イン・ザ・ネービー</p> 6 4人組でリズムカードと体カードを使って、体の各部位を音楽のリズムに乗って動かす <p>★HERO</p>  7 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分たちの姿を映し出す 8 できたグループ同士で交流して、お互いの動きを真似しあう 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快な音楽のリズムに合わせ、教師の動きかけで全身をほぐす ・教師の見本と一緒に練習する ・教師の言葉かけに素早く反応して動きを起こさせる ・動きの流れを大切にし、活動が途切れないように言葉かけをしていく ・誰とでもかかわり合えるようにさせる  <ul style="list-style-type: none"> ・グループで好きなカードを5枚ずつ選んでリズムに乗って大きく動くようにさせる ・グループで場所に分かれ、選んだカードを壁に貼る ・動く方向、場、軌跡を変えさせる ・動きが止まらないようにさせる ・創作で行詰っているグループに声をかけていく ・自分たちの動きを見るようにさせる ・自己評価、相互評価をさせる ・交流した友だちからメッセージをもらう 	<p>【関心・意欲・態度】 仲間とかかわって、楽しく動いている。<観察></p> <p>【技能】 仲間とリズムに乗って動いている<観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つけることができる <学習ノート></p>
10分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 9 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 10 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をして見通しを持たせる ・記入の仕方を確認する(巡回指導) ・姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】 自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第5時間目 平成16年10月 8日(金) 第3校時(10:40~11:25)				
ねらい (1) 仲間と一緒にロックのリズムに乗って体を動かす楽しさを味わう (2) 自由に運動を組み合わせながら、楽しく1曲を踊りきる				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <p>1 学習ノートの記入をする</p> <p>2 本時の学習のねらいと課題を確認する</p> <p>3 2人組でストレッチを行う</p> <p>4 集合・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る 今日の心と体の状態をチェックさせる 今日の目標を記入させる 心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる 声をかけながら巡回する 人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 今日の心と体の状態を確認する 学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<p>5 体ほぐしの運動を行う</p> <p>①円になってリズムに乗って手合わせ</p> <p>②スキップ 88442222で前後に移動</p> <p>③ゆらす(腰はツイスト)</p> <p>④手をつないでランニング 88442222で左右に移動</p> <p>⑤手をつないで跳ぶ 88442222で前後・左右</p> <p>⑥たたく(肩・肩・膝・膝・足裏・足裏)</p> <p>①～⑥まで繰り返し</p> <p>⑦誕生日ごとに円の中央に出て32呼間自由に踊る(待っている間は手拍子)</p> <p>★イン・ザ・ネービー</p> <p>6 4人組で、体の各部位を音楽のリズムに乗って動かす</p> <p>★HERO</p> <ul style="list-style-type: none"> 8人組になって前回踊ったダンスを教え合う <p>7 空間(場)のくずし、体のくずし、リズムのくずしを加えて踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> できた踊りを繰り返して、1曲最後まで踊りきる <p>8 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分たちの姿を映し出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 軽快な音楽のリズムに合わせ、教師の働きかけで全身をほぐさせる 教師が見本を示し、一緒に練習させる 動きの流れを大切に、活動が途切れないように言葉かけをしていく 誰とでもかかわりあえるようにさせる ランニングでもよいのでリズムに乗って体を動かすようにさせる 自分で好きなカードを選んで大きく動くようにさせる リズムを体全体でとらえさせる 思いっきり体を動かすようにさせる 相手の動きのよさを見つけさせる 動く方向、場、軌跡を変えるように声をかける 人間関係をくずす(はなれたりくっついた) 動きが途切れないようにさせる 自己評価、相互評価をさせる 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>仲間とかかわって、楽しく動いている。<観察></p> <p>【技能】</p> <p>仲間とリズムに乗って動いている<観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】</p> <p>自分のよさや仲間のよさを見つけることができる (学習ノート></p>
10分	まとめ	<p>9 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う</p> <p>10 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告をして見通しを持たせる 記入の仕方を確認する(巡回指導) 姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】</p> <p>自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第6時間目 平成16年10月12日(火) 第5校時(12:55~13:40)				
ねらい (1) 仲間や自分のよさを見つけ相手に伝える (2) 自由に運動を組み合わせて踊る楽しさを味わう				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <p>1 学習ノートの記入をする</p> <p>2 本時の学習のねらいと課題を確認する</p> <p>3 2人組でストレッチを行う</p>  <p>4 集合・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る 今日の心と体の状態をチェックさせる 今日の目標を記入させる 心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる 声をかけながら巡回する 人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 今日の心と体の状態を確認する 学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<p>5 体ほぐしの運動を行う(全員で円形)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カノンリズム <p>★ サンバ・DE・ジャネイロ</p>  <p>6 前回8人組で踊った動きをプロジェクターで映し出して空間(場)のくずし、体のくずし、リズムのくずしを加えて踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた踊りを繰り返して、1曲最後まで踊りきる <p>7 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクターで自分の姿を映し出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手と足をつかかって音を鳴らしてリズムをとる 床をたたいたり、体の部位をたたいたりして音を出すという簡単な動きからリズムをづくり出す 4つのグループに分かれて各グループで2枚のカードのリズムを取ってカノンリズムで行う 動く方向、場、軌跡を変えさせる 体の位置部分の多様化をさせる リズムのくずさせる(規則的からメリハリへ) 人間関係をくずさせる(はなれたりくっついたり) 自己評価、相互評価をさせる 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>仲間とかかわって、楽しく動いている。<観察></p> <p>【技能】</p> <p>仲間とリズムに乗って動いている</p> <p><観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】</p> <p>自分のよさや仲間のよさを見つけることができる</p> <p><学習ノート></p>
10分	まとめ	<p>8 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う</p> <p>9 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告をして見通しを持たせる 記入の仕方を確認する(巡回指導) 姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】</p> <p>自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第7時間目 平成16年10月14日(木) 第5校時(13:30~14:20)				
ねらい (1) サンバのリズムに乗る楽しさを味わう (2) 自由に運動を組み合わせて踊る楽しさを味わう				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習ノートの記入をする 本時の学習のねらいと課題を確認する 2人組でストレッチを行う  <ol style="list-style-type: none"> 集合・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る 今日の心と体の状態をチェックさせる 今日の目標を記入させる 心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる 声をかけながら巡回する 人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 今日の心と体の状態を確認する 学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<ol style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動を行う(全員で円形) <p>★サンバ・DE・ジャネイロ</p> <p>サンバステップに挑戦する</p> <ul style="list-style-type: none"> 9つのグループに分かれてサンバステップで踊る  <ol style="list-style-type: none"> 4人組でリズムカードを4枚使って、体の各部位を音楽のリズムに乗って動かす。 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクターで自分の姿を映し出す プロジェクターで移し終わった班から他の班と交流をする 	<ul style="list-style-type: none"> 手と足をつかかって音を鳴らしてリズムをとらせる 床をたたいたり、体の部位をたたいたりして音を出すという簡単な動きからリズムに乗らせる 上手に踊ることよりもリズムを体全体でとらえさせる 動く方向、場、軌跡を変えさせる 体の位置部分の多様化 リズムのくずし(規則的からメリハリへ) 人間関係をくずす(はなれたりくっついたリ) 自己評価、相互評価をさせる 見せ合うことよりも、かかわって一緒に踊ることを中心にさせる 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>仲間とかかわって、楽しく動いている<観察></p> <p>【技能】</p> <p>仲間とリズムに乗って動いている</p> <p><観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】</p> <p>自分のよさや仲間のよさを見つけることができる</p> <p><学習ノート></p>
10分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告をして見通しを持たせる 記入の仕方を確認する(巡回指導) 姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】</p> <p>自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第8時間目 平成16年10月19日(火) 第5校時(13:10~14:55)				
ねらい (1) 仲間と一緒にサンバのリズムに乗って踊る楽しさを味わう (2) ヒップホップの特徴であるダウンの音の取り方と動き方で踊る				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
10分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習ノートの記入をする 2 本時の学習のねらいと課題を確認する 3 2人組でストレッチを行う 4 集合・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る ・今日の心と体の状態をチェックさせる ・今日の目標を記入させる ・心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる ・声をかけながら巡回する ・人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする ・今日の心と体の状態を確認する ・学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
30分	なか	<ol style="list-style-type: none"> 5 前時に交流した班と、再びサンバのリズムに乗って踊る  6 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分の姿を映し出す 7 サンバのリズムで踊った動きをヒップホップのリズムで踊る  8 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分の姿を映し出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・動く方向、場、軌跡を変えさせる ・体の位置部分の多様化 ・リズムのくずし(規則的からメリハリへ) ・人間関係をくずす(はなれたりくっついた) ・曲のリズムに乗って大きく体を動かすようにさせる ・自己評価、相互評価をさせる ・同じ動きでも、曲のリズムの違いによって乗り方が違うことを気付かせる ・ヒップホップはへそを上下に動かして「たてのり」のリズムで踊ることを知らせる  ・自己評価、相互評価をさせる 	<p>【技能】 仲間とリズムに乗って動いている <観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つることができる <学習ノート></p>
10分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 9 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 10 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をして見通しを持たせる ・記入の仕方を確認する(巡回指導) ・姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】 自己や仲間の課題を発見している</p>

10時間扱いの第9時間目 平成16年10月26日(火) 第5校時(13:25~14:15)				
ねらい (1) いろいろなリズムに乗って、動きを工夫して踊ることができる (2) 誰とでもかかわり合い、自分や仲間のよさを見つけることができる				
時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価
5分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <p>1 学習ノートの記入をする</p> <p>2 本時の学習のねらいと課題を確認する</p> <p>3 2人組でストレッチを行う</p> <p>4 集合・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る 今日の心と体の状態をチェックさせる 今日の目標を記入させる 心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる 声をかけながら巡回する 人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 今日の心と体の状態を確認する 学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 	
35分	なか	<p>5 力を抜く練習(大きな円づくり中央を向く)をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 力を抜いてジャンプ 左右に足を出す 前後に足を出す クロスステップ ボックスステップ <p>★マイ・ジェネレーション</p> <p>6 グループづくりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員で円を作って座り1~6まで番号をかけ、同じ番号同士で班を作る(6人組) <p>7 6人組でグループづくり、ロック・サンバ・ヒップホップの3種類の曲で踊る(1人1曲各8呼間を踊る)</p> <p>★ミッキー(ロック) 前奏4呼間+8呼間×10</p> <p>★ヴィラレー(サンバ) 8呼間×7+2呼間</p> <p>★if(ダ・パンプ) 8呼間×6</p> <p>7 視聴覚教材(ビデオ)を活用し、プロジェクトで自分の姿を映し出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 曲を聞きながらリズムを取って全身でリズムを捉えさせる 足首・膝・腰+胸と首の力を抜かせる 苦しくなったらもっと力を抜かせる 手加減しないで思い切って前に足を出させる 髪の毛が揺れるぐらい揺らすようにさせる 班長の役割は、班員の意見をまとめたり、班員の意見を引き出したりすることであることを伝える 班長を立候補で出させる 本時は次回の交流会に向けての活動なので、今まで行ってきた動きを組み合わせ、動きをつなげることを意識させる 難しい動きやステップではなく、へそを中心にしてリズムに乗っていく中で、自然に思いついた簡単な動きを組み合わせ、繰り返し踊っていくことを指導する 自己評価、相互評価をさせる 	<p>【関心・意欲・態度】 仲間とかかわって、楽しく動いている<観察></p> <p>【技能】 仲間とリズムに乗って動いている <観察・VTR・学習ノート></p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つけることができる <学習ノート></p>
10分	まとめ	<p>8 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う</p> <p>9 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告をして見通しを持たせる 記入の仕方を確認する(巡回指導) 姿勢を正しくさせて挨拶をする 	<p>【思考・判断】 自己や仲間の課題を発見している</p>

ねらい (1) 仲間と共に体を動かす喜びや楽しさを味わうことができる
 (2) これまでの学習を振り返り、学習の成果を確認することができる

時間	段階	学習の内容と活動	指導・支援	評価														
5分	はじめ	<p>★ワンダフルライフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習ノートの記入をする 本時の学習のねらいと課題を確認する 2人組でストレッチを行う  <ol style="list-style-type: none"> 集合・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけてリラックスした雰囲気を作る 今日の心と体の状態をチェックさせる 今日の目標を記入させる 心と体をリラックスさせ力を抜かせ、相手の体に気付かせる 声をかけながら巡回する 人数の確認、ペアを作れない生徒へ声かけをする 今日の心と体の状態を確認する 学習のねらいを理解させ、本時の流れを知らせる 															
35分	なか	<ol style="list-style-type: none"> これまで踊ったダンスを繰り返し踊り続ける <table border="1" data-bbox="331 891 710 1057"> <tr> <td>3班 ↑</td> <td>2班 ↑</td> <td>1班 ↑</td> <td rowspan="2">ステージ</td> </tr> <tr> <td>6班 ↓</td> <td>5班 ↓</td> <td>4班 ↓</td> </tr> </table> <p>★ミックシー(ロック) 8呼間×10 ★ヴィラレー(サンバ) 8呼間×7 ★if(ダ・パンプ) 8呼間×6</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回作った動きに、さらに方向や空間(場)の工夫をして音楽に合わせて繰り返す  <ol style="list-style-type: none"> ダンス発表会と交流会を行う <table border="1" data-bbox="331 1505 710 1671"> <tr> <td>3班</td> <td>2班</td> <td>1班</td> <td rowspan="2">ステージ</td> </tr> <tr> <td>6班</td> <td>5班</td> <td>4班</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 各班で順番に円の中心に出て発表し、次に模倣してみんなで一緒に踊る 	3班 ↑	2班 ↑	1班 ↑	ステージ	6班 ↓	5班 ↓	4班 ↓	3班	2班	1班	ステージ	6班	5班	4班	<ul style="list-style-type: none"> つなぎ合わせた3曲を繰り返し流す 難しい動きやステップではなく、へそを中心にリズムに乗っていく中で、自然に思いついた簡単な動きを組み合わせ、繰り返し踊っていくことを指導する 動きが思いつかない時は、リズムカード、体カードを参考にさせる 動きにめりはりをつけ、思いっきりリズムに乗って体を動かすようにさせる 動きが途切れないように連続して踊るようにさせる  <ul style="list-style-type: none"> 一緒に踊って模倣して動きを共有する楽しさを味わわせる 各班の動きの後に拍手をし、互いを賞賛し合うように働きかける 数名の生徒に感想を言わせる よい動きに対して、声に出してアドバイスができるようにさせる 	<p>【技能】 ねらいに即した運動ができる ＜観察・学習ノート＞</p> <p>【思考・判断】 自分のよさや仲間のよさを見つめることができる ＜学習ノート＞</p>
3班 ↑	2班 ↑	1班 ↑	ステージ															
6班 ↓	5班 ↓	4班 ↓																
3班	2班	1班	ステージ															
6班	5班	4班																
10分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 集合し、学習カードに今日の授業の自己評価とまとめを行う 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返り、意欲的に動いていた生徒を拍手で賞賛できるように声かけをする 姿勢を正しくさせて挨拶をする 															

2 検証の視点の分析・考察

検証の視点

「現代的なリズムのダンス」の学習において、場・学習資料・学習形態の工夫をすることにより、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができたか。

(1) リズムに乗って体を動かすことができたか

ア ダンスイメージビデオの視聴により、現代的なリズムのダンスに対する意欲の高まりや理解の深まりが見られたか

(ア) 学習ノートの記事から

1時間目の授業において、生徒に「ダンスイメージビデオを見てどのようなことを感じたか」について学習ノートに記述させた。

図4-1は、それらの記述を「楽しそう」「やってみたい」「自由に自分らしくリズムに乗って踊る」といった現代的なリズムのダンスに対しての意欲の高まりや理解の深まりに関する記述が見られるかどうかという視点から分析し、それらの記述があると判断できる生徒とそうでない生徒の割合と人数を表したものである。グラフから、クラスの8割以上の生徒が意欲の高まりや理解の深まりに関する感想を持ったことがわかる。

表4-1は、生徒の学習ノートの記述から、意欲の高まりや理解の深まりに関する記述であると判断できるものを抜粋したものである。関心や意欲の高まりについては、「自分でもやってみたい」「自分もできるようになれたらいいと思った」、理解の深まりについては、「自由にダンスを踊ればいいということがわかった」というような具体的な記述が見られた。

表4-1 ダンスイメージビデオを見てどのようなことを感じましたか
(関心や意欲の高まりについての記述)

- ・ いろいろな動きがあって楽しくなった。自分でもやってみたいと思った(9人)
- ・ かっこいいと思った。自分もできるようになれたらいいと思った(4人)
- ・ 自分の知らないリズムがあって楽しかった
- ・ 恥ずかしさを捨てなきゃだめだ

(理解の深まりについての記述)

- ・ ダンスはかっこよさじゃないということ
- ・ みんなが自由に楽しそうに踊っていた(2人)
- ・ 自由にダンスを踊ればいいということが分かった(2人)
- ・ ダンスにいろいろな種類があることが分かった(7人)
- ・ 時代によってダンスの流行があることが分かった
- ・ みんな好きなように動いていて、こんな動きもあるんだと思った
- ・ ダンスも一つの形だけでなくたくさんあることが分かった

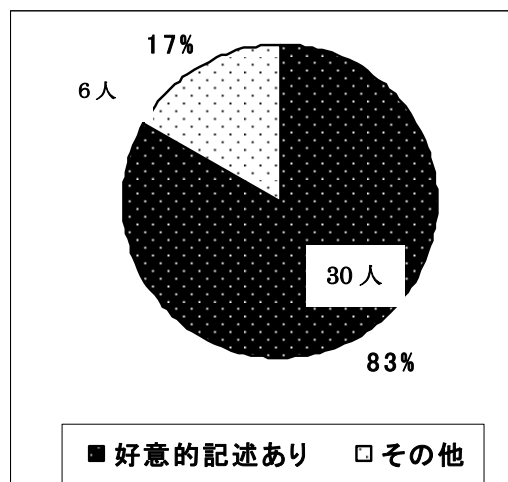


図4-1 現代的なリズムのダンスに対して好意的な記述が見られた生徒の割合

以上のことからダンスイメージビデオを見ることにより、ほとんどの生徒が、現代的なリズムのダンスに対する意欲を高めたり理解を深めたりすることができたと考えることができる。

イ リズムカード・体カードでリズムに合わせて動くことができたか

(ア) 学習ノートの自己評価とVTR分析から

図4-2は、学習ノートの自己評価項目「リズムに合わせて動くことができたか」についての4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」と「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

このグラフから1時間目から7時間目までは、学習の経過とともに「大変そう思う」と回答した生徒が増加していることが分かる。

8時間目に「大変そう思う」と回答した生徒が減少している。これは、8時間目に初めてヒップホップのリズムに乗って踊る活動をしたが、リズムに乗れず十分に活動できない生徒が数名いたためと思われる。

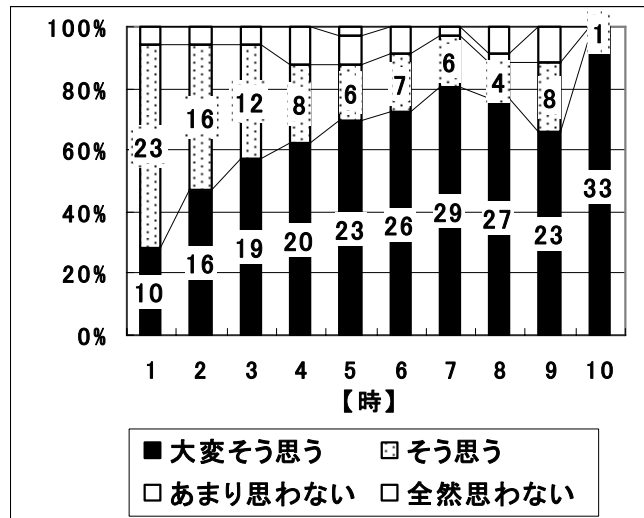


図4-2 リズムに合わせて動くことができましたか

表4-2は、着目生徒A子の活動の様子を2時間目から4時間目のVTRから分析した結果である。A子は授業前アンケートにおいて、ダンスの授業や現代的なリズムのダンスは「どちらかといえば嫌い」と答えており、ダンスに対するイメージも好意的ではなかった。しかし、授業後アンケートにおいては、ダンスの授業や現代的なリズムのダンスは「大好き」と変容し、ダンスに対するイメージも好意的になった生徒である。

表4-2 「着目生徒の活動の様子」

	活動の様子	学習ノートの記述
2時間目	リズムに合わせて手拍子を打つことができる。時々合わなくなるが、手拍子と同じリズムでステップを踏むことができる	リズムカードはむずかしかったが、リズムに乗った
3時間目	弾んだり揺れたりしながらリズムをとらえ、手、脚、腰をリズムに合わせて動かすことができる	恥ずかしさのかけらもないいつもの自分がいない
4時間目	弾み、ジャンプ、ステップ、揺れによりリズムをとらえ、腕、肩、脚、腰をリズムに合わせて動かすことができる	テンションが最高に近くなって自分を忘れた

以上の着目生徒A子の2～4時間目の動きの変化から、リズムカード・体カードを使うことによってリズムに乗って体を動かすことができ、動かす体の部位も増えて、徐々に全身でリズムをとらえることができるようになった様子が分かる。さらに5時間目以降も、音楽がロック、サンバ、ヒップホップと変化しても、それぞれのリズムを全身でとらえ、リズムに乗って踊っていた。

(イ) リズムカードにかかわる事後アンケートから

図4-3は、事後アンケート項目「リズムカードは体でリズムを取ることに役立ったか」についての3段階評価の割合を表したグラフである。

「役立った」と答えている生徒が32人で全体の89%の生徒がリズムカードは体でリズムを取ることに役立った、と答えていることが分かる。

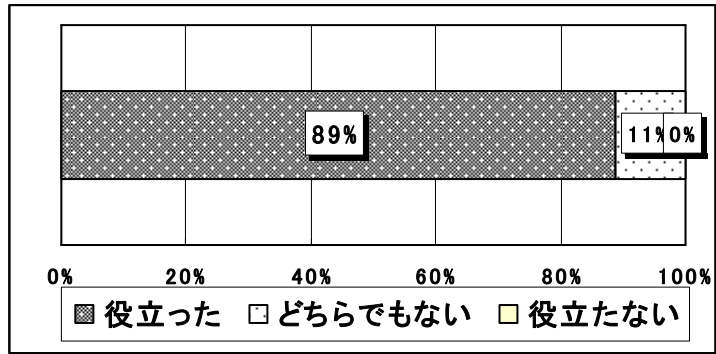


図4-3 リズムカードは体でリズムを取ることに役立ちましたか

表4-3は、「リズムカードを使っての感想」について生徒の学習ノートの記述を抜粋したものである。リズムカードを使うことにより、「新しいリズムをとれるようになった」というような記述からも、リズムカードは体でリズムを取ることに役立ったと考えられる。

表4-3 「リズムカードを使っての感想」

- ・ リズムカードでリズムがとれて楽しかった（13人）
- ・ 自分でリズムを作れてよかったし、わかりやすかった
- ・ 足と手を使ったから楽しかった
- ・ 知らない、新しいリズムをできるようになりました
- ・ いろいろ足や手で表現できてよかった
- ・ 難しいリズムや簡単なリズムのカードがあって、いろいろ交互にして楽しかった

以上のように、生徒はリズムカードを使うことによって、曲のリズムをとらえやすくなったと感じていることから、リズムカードは体でリズムを取ることに役立ったと考えられる。

(ウ) 体カードにかかわる事後アンケートから

図4-4は、事後アンケート項目「体カードで体の部位を意識して動かすことができたか」についての3段階評価の割合を表したグラフである。

「はい」と答えている生徒が33人で92%の生徒が体カードで体の部位を意識して動かすことができた」と答えていることが分かる。

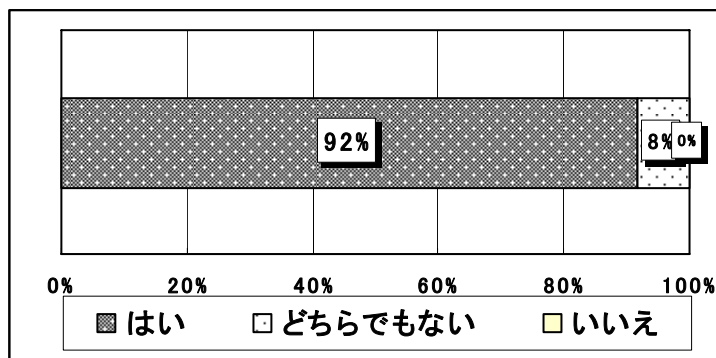


図4-4 体カードで体の部位を意識して動かすことができましたか

また、**図4-5**は、事後アンケート項目「体カードで体の動かし方が分かったか」についての3段階評価の割合を示したグラフである。

「はい」と答えている生徒が31人で、86%の生徒が体カードで体の動かし方が分かったと答えていることが分かる。

この2つのアンケート結果から体カードは体の部位を意識して動かすことに役立ったと考えられる。

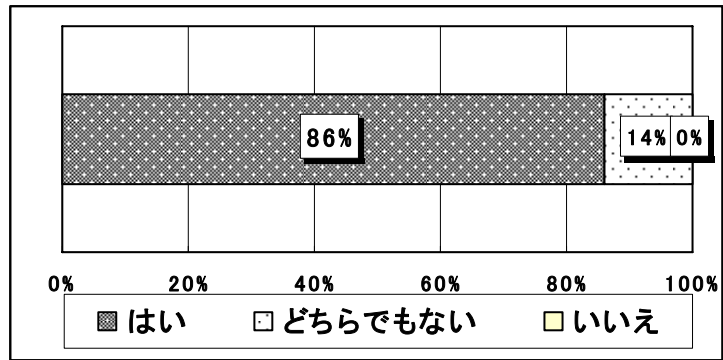


図4-5 体カードで体の動かし方が分かりましたか

表4-4は、「リズムカードと体カードを一緒に使った感想」について生徒の学習ノートの記述を抜粋したものである。リズムカードと体カードを使うことにより、「どんどんアイデアが出せた」という記述から、リズムカードと体カードはリズムを取って体を動かすことに役立ったと考えられる。

表4-4 「リズムカードと体カードを一緒に使った感想」

- ・ どんどんアイデアが出せて楽しかった
- ・ リズムカードだけと違っていっぱい動かして楽しかった(5人)
- ・ 楽しくできた。カードの選択することも楽しい
- ・ 最初は恥ずかしかったけど、やっていくうちに楽しくなった(2人)
- ・ いろいろアイデアを出してみんながやらなそうなことを考えた
- ・ いろいろなリズムをとれて楽しかった
- ・ 体のいろいろな所を全部使うことができた
- ・ わかりやすかった
- ・ 体の部分をいろいろ使っておもしろい動きができた
- ・ バージョンアップして楽しい(体の部分が増えた)

以上のことから、生徒はリズムカード・体カードを使って、リズムに合わせて動くことができたと考えられる。

(1) 検証の視点 「リズムに乗って体を動かすことができたか」についてのまとめ

検証の視点に沿って結果を分析してきた結果、次のことが明らかになった。

多くの生徒は、ダンスイメージビデオを見ることによって、現代的なリズムのダンスに好意的なイメージを持つことができた。また、リズムカード・体カードを使ってリズムに乗って体を動かすことができた。

以上のことから、現代的なリズムのダンスの学習において、学習資料の工夫をすることによって、リズムに乗って体を動かすことができたと考えられる。

(2) 仲間と共に踊ることができたか

ア 仲間と動きを教え合うことができたか

(ア) 学習ノートの自己評価から

図4-6は、学習ノートの自己評価項目「仲間と動きを教え合うことができたか」についての4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

2時間目から5時間目までは「大変そう思う」と答えた生徒は、大きな変化はなく、6時間目に評価が上昇して、「大変そう思う」と答えている生徒が30人で、約80%の生徒が仲間と動きの教え合いができたと答えていることが分かる。

これは、5時間目に4人組同士で動きを教え合い6時間目は同じ8人組になって踊る活動をしたため、グループ内での教え合いがさらに深まっていったためと考えられる。

また、9時間目の活動では、「大変そう思う」と答えた生徒が減少しているが、ロック・サンバ・ヒップホップの3種類の曲で踊る課題を与えたために仲間と教え合う活動の時間が不足したことで、評価が低くなっていると考えられる。

10時間目には評価が上昇して、全員が「大変そう思う」「そう思う」と回答し、「全然思わない」と答えた生徒がいなくなったことが分かる。これは10時間目にお互いの踊りをつぎつぎと交代して踊るメドレー方式で交流会を行ったことによって、仲間と動きを教え合うことができたためと考えられる。

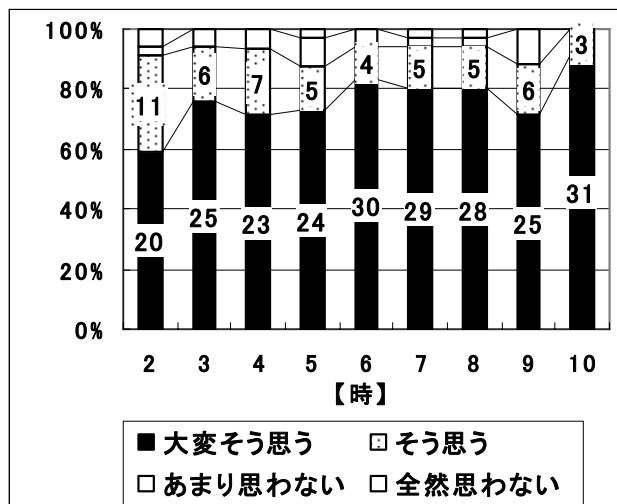


図4-6 仲間と動きを教え合うことができましたか

以上のことから、単元を通して生徒は仲間と動きを教え合うことができたと考えられる。

イ 仲間の動きを取り入れて、体を動かすことができたか

(ア) 学習ノートの自己評価から

図4-7は、学習ノートの自己評価項目「仲間の動きを取り入れて体を動かすことができたか」についての4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

5時間目までは、学習の経過とともに「大変そう思う」と回答した生徒が増加しており、それ以降8時間目までは横ばい状態である。

9時間目に減少しているが、これは新しい6人グループになり、さらにロック・サンバ・ヒップホップの3種

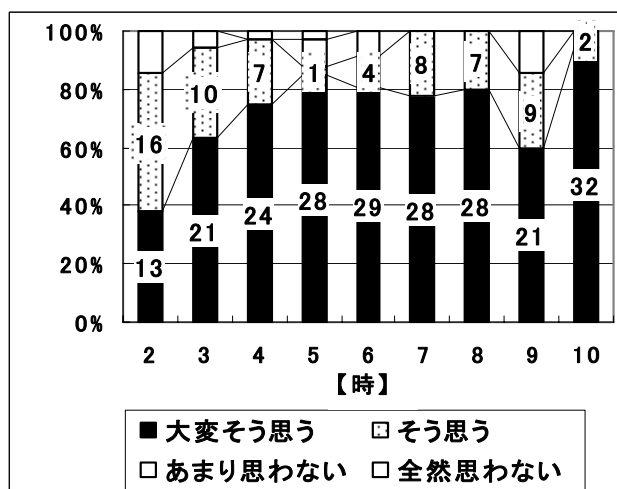


図4-7 仲間の動きを取り入れて体を動かすことができましたか

類の曲で踊る課題を与えたために踊る活動が十分でなかったためと思われる。

10 時間目には評価が上昇して、34人の生徒が「大変そう思う」「そう思う」と回答し、「あまり思わない」「全然思わない」と答えた生徒がいなくなったことが分かる。これは 10 時間目にお互いの踊りをつぎつぎと交代して踊るメドレー方式で交流会を行ったことによって、仲間の動きを取り入れて体を動かすことができたためと思われる。

以上のことから、多くの生徒が仲間の動きを取り入れて体を動かすことができたと考えられる。

ウ 自分や仲間のよさを見つけることができたか

(ア) 学習ノートの自己評価から

図 4-8 は、学習ノートの自己評価項目「自分や仲間のよさを見つけることができたか」についての 4 段階評価の割合の変化と「大変そう思う」と「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

7 時間目までは、学習の経過とともに「大変そう思う」と回答した生徒が増加していることが分かる。これは 2 人組や 4 人組・6 人組とグループ編成を段階的に変化させることで、多くの仲間とかかわり合うことができ、仲間の様々な動きに触れ、多くの仲間のよさを見つけることができたと思われる。

8・9 時間目に「大変そう思う」と回答した生徒が減少している。これは、8 時間目に初めてヒップホップのリズムに乗って踊る活動を行ったが、リズムに乗れずに十分に活動できない生徒が数名いたためだと思われる。また、9 時間目の活動では、ロック・サンバ・ヒップホップの 3 種類の曲で踊る課題を与えたために踊る活動が少なかったためだと思われる。

しかし、10 時間目には、全体的に評価が上昇して、全員が「大変そう思う」「そう思う」と回答し、「あまり思わない」「全然思わない」と回答した生徒がいなくなったことが分かる。これは、10 時間目に、全員でお互いの動きを鑑賞する発表会や、他の班の踊りをまねて一緒に踊る交流会という形をとったことで、踊りのよさを分かち合うことができ、自分や仲間のよさを見つけることができたためと考えられる。

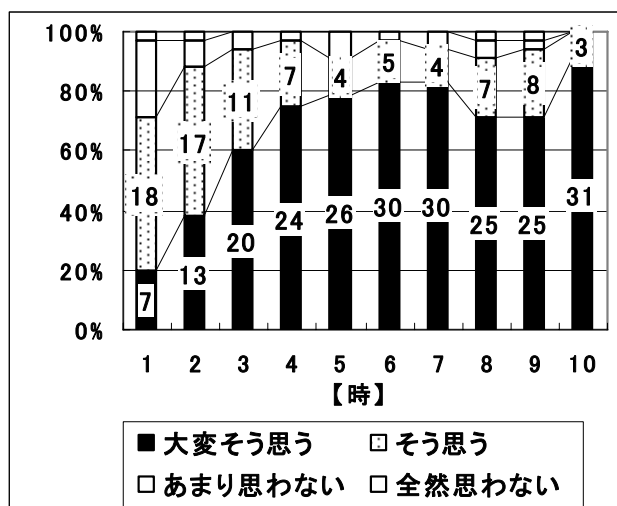


図 4-8 自分や仲間のよさを見つけることができましたか

(イ) プロジェクターにかかわる事後アンケートと学習ノートの記述から

図4-9は、授業後アンケート項目「プロジェクターで自分や仲間のよさを見つけることができましたか」についての3段階評価の割合を表したグラフである。

「はい」と答えている生徒が28人で全体の78%の生徒が見つけられたと答えていることが分かる。

プロジェクターで踊っている姿をスクリーンに映し出すことによって、自分の動きのよさや仲間のよさを見つけることに役立ったと考えられる。

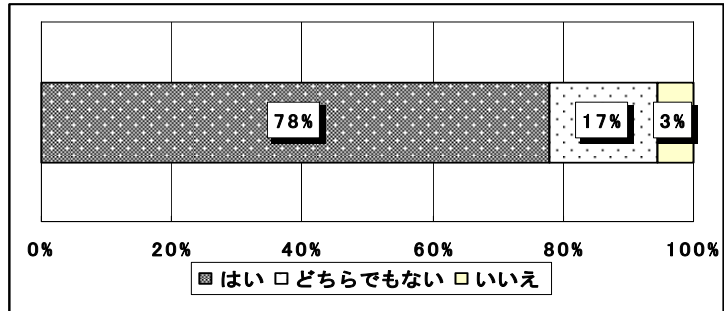


図4-9 プロジェクターで自分や仲間のよさを見つけることができましたか

表4-5は、「プロジェクターで自分たちの姿から自分の動きのよさや、仲間の動きのよさを見つけよう」について生徒の学習ノートの記述を抜粋したものである。これらの記述から、プロジェクターで踊っている姿を映し出して見ることによって、自分の踊りの変化や仲間の動きのよさを見つけ出すことができていると考えられる。

表4-5 「プロジェクターで自分たちの姿から自分の動きのよさや、仲間の動きのよさを見つけよう」(抽出生徒の記述)

抽出生徒1

	自分のよさ	仲間のよさ
2時間目	○リズムには乗れなかったけど体を動かしていたところ	○リズムに乗れていたところ
3時間目	○リズムが少しとれたところ	○みんなすごくリズムが取れていたところ
6時間目	○リズムに乗っていてよかったところ	○とてもリズムに乗っていたところ
8時間目	○体を思いっきり動かせたところ	○すごくリズムに乗っていたところ

抽出生徒2

	自分のよさ	仲間のよさ
2時間目	○動きが小さかったけどリズムがなんとか取れていたところ	○動きがはっきりとしていたところ
3時間目	○元気よく勢いよく動いていたところ	○楽しそうに笑いながら乗っていた
6時間目	○自分らしく動いていたところ	○楽しそうに動いていた
8時間目	○リズムに乗ろうとしていなかった	○よくリズムに乗って動いていた

以上のことから、生徒は自分や仲間のよさを見つけることができたと考えられる

検証の視点（２） 「仲間と共に踊ることができたか」についてのまとめ

検証の視点に沿って結果を分析してきた結果、次のことが明らかになった。

生徒は、グループ編成の段階的な変化によって、2人組から4人組・8人組・6人組と仲間の動きを取り入れながら、多くの仲間と一緒に動くことを楽しむことができた。

また、プロジェクターでスクリーンに自分たちが踊っている姿を見ることで、自分や仲間のよさを見つけることができた。そして交流会やグループ活動を通して、お互いの動きを教え合い、仲間の動きを取り入れながら、共に踊ることができた。

以上のことから、現代的なリズムのダンスの学習において、場・学習形態の工夫をすることによって、仲間と共に踊ることができたと考えられる。

（３）踊る楽しさや喜びを味わうことができたか

ア 仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができたか

（ア）学習ノートの自己評価から

図4-10は、学習ノートの自己評価項目「仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができた」についての4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」と「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

1時間目のオリエンテーションでは、一緒に動く楽しさを味わうことができたとして自己評価している生徒が16名で全体の約40%であったが、4時間目では約80%で上昇していることが分かる。

2時間目から段階的に、2人組から4人組とグループ編成を変化させたことにより、仲間とお互いの動きを教え合うことや、助け合いをしながら体を動かす活動ができたためと思われる。

5時間目では低下したが、これは8人組でお互いの動きを教え合うことが中心となり、一緒に動く場面が少なかったためと思われる。

10時間目には、「大変そう思う」「そう思う」と回答した生徒の数が34名と最高の値を示し、「あまり思わない」「全然思わない」と回答した生徒がいなくなったことが分かる。これは、10時間目に、全員での発表・交流会という形をとったことでお互いの動きを共有し、一体感を味わうことができ、仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができた授業であったことが分かる。

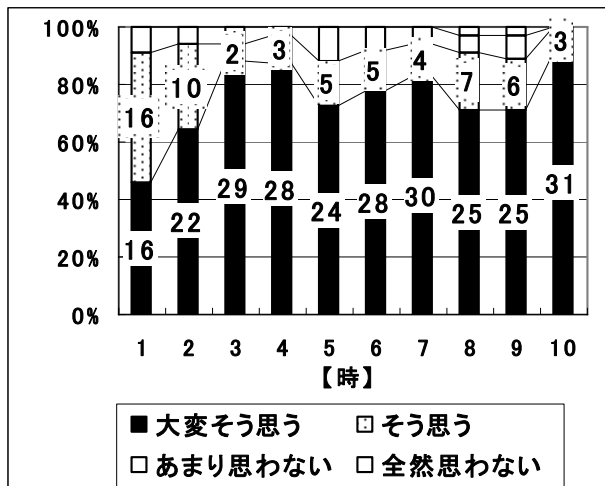


図4-10 仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができたか

（イ）いろいろな人とダンスを踊ることについてどう思ったか

表4-6は事後アンケート項目「いろいろな人とダンスを踊ることについてどう思いましたか」についての生徒の記述内容からの抜粋である。「とても楽しくてみんなの交流を深められた」「話したことがない人や仲のよい人とみんなで楽しく踊れてよかった」という内容からも、仲間と共に踊ることで、踊る楽しさや喜びを味わうことができたと考えられる。

表 4-6 いろいろな人とダンスを踊ることについてどう思いましたか

- ・ダンスは気持ちをそろえないとできないから、協力できてよいと思う（2人）
- ・いろいろな人と、ダンスを考えたりするのは楽しかった
- ・とても楽しくてみんなの交流を深められたと思います（6人）
- ・みんなとたくさん合わせてできるようになると、どんどん楽しくなってきた
- ・いろいろな人のアイデアや意見を聞いてぜんぜん違う踊りがいっぱい出てきた
- ・人数が多くなるたびにどんどん盛り上がってきて楽しかった
- ・話したことがない人や仲のよい人とみんなで楽しく踊れてよかった（4人）

以上のことから、生徒は仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができたと考えられる。

イ ダンスの学習を通して、踊る楽しさや喜びを味わうことができたか

(ア) 学習ノート自己評価と事後アンケートから

図 4-11 は、学習ノートの自己評価項目「恥ずかしがらずに思いっきり体を動かすことができたか」について4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

2間目以降学習の経過とともに「大変そう思う」と回答した生徒が増加しており、10時間目には評価が上昇して、「大変そう思う」「そう思う」と34人の生徒が回答し、「あまり思わない」「全然思わない」と答えた生徒がいなくなったことが分かる。

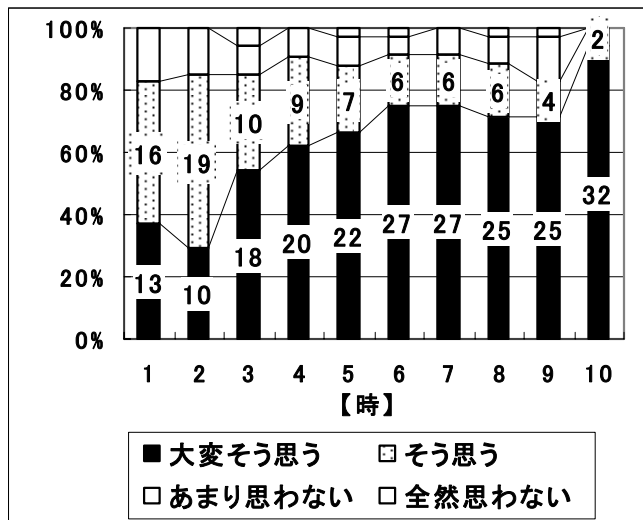


図 4-11 恥ずかしがらずに思いっきり体を動かすことができましたか

図 4-12 は、事後アンケート項目「恥ずかしがらずに取り組めたか」についての「はい」「いいえ」の割合を比較したグラフである。

「はい」と答えている生徒が 32 人で、89%の生徒が恥ずかしがらずに取り組めたと答えていることが分かる。

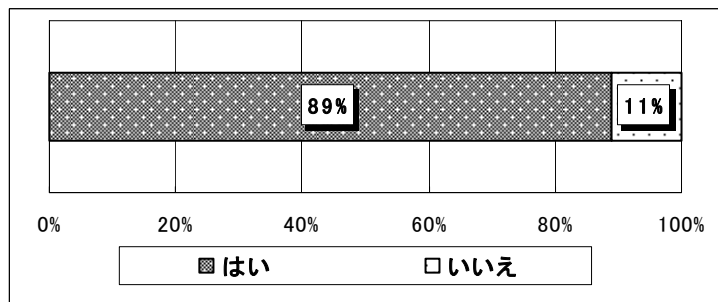


図 4-12 恥ずかしがらずに取り組めましたか

表 4-7 は授業後アンケート「恥ずかしくないのはなぜですか。また、恥ずかしくなくなったのはなぜですか」についての記述の抜粋である。「みんなで楽しんで踊っているうちに恥ずかしくなくなった」というような内容からも、授業の経過と共に仲間とリズムに乗って体を動かすことができるようになり、踊る楽しさや喜びを感じられたことによって、恥ずかしさがなくなっていったと考えられる。

表 4-7 「恥ずかしくないのはなぜですか」

- ・動くことは気持ちがいいし、おもしろいから恥ずかしくありません
- ・ダンスが好きだから恥ずかしくありません

「恥ずかしくなくなったのはなぜですか」

- ・最初は少し恥ずかしかったけど、体をリズムに乗って動かしているうちに楽しくて恥ずかしくなくなった
- ・最初は恥ずかしいと思っていたけど、みんな楽しそうにしているうちに飲み込まれていくように自分も楽しくなって「恥ずかしい」よりも楽しみになった
- ・最初は恥ずかしかったがみんな楽しんでいくうちになくなった（9人）
- ・最初はちょっと恥ずかしかったけれど何回も踊るうちに恥ずかしくなくなってきた
- ・初めてのダンスは回りが気になったりしたけどやっていくうちにどんどん楽しくなっていくので恥ずかしさもなくなっていった
- ・みんなが楽しそうな笑顔で取り組んでいたから
- ・ダンスが楽しいのでそんなことは忘れて踊っていた
- ・みんな協力してできたので恥ずかしがらずにできた
- ・みんな踊っているうちに恥ずかしくなくなった
- ・ダンスの楽しさを知って、頭で考えるより体で覚えて踊ったから

(イ) 学習ノートの自己評価から

図 4-13 は、学習ノートの自己評価項目「楽しんで踊ることができたか」についての4段階評価の割合の変化と「大変そう思う」「そう思う」と回答した人数を表したグラフである。

このグラフから3時間目に、「大変そう思う」と回答した生徒が増加していることが分かる。これはリズムカードと体カードを使い4人組で仲間と踊る活動であり、カードとグループ学習の成果が見られると思われる。

また、7時間目のサンバの授業では「大変そう思う」「そう思う」と答えた生徒が35人となり、ほとんどの生徒がサンバの楽しさにふれ楽しんで踊ることができたといえる。

さらに10時間目には「大変そう思う」「そう思う」と答えた生徒が34人となり、「あまり思わない」「全然思わない」と答えた生徒がいなくなったことが分かる。これ10時間目にお互いの踊りをつぎつぎと交代して踊るメドレー方式で交流会を行ったことによって、楽しんで踊ることができたと考えられる。

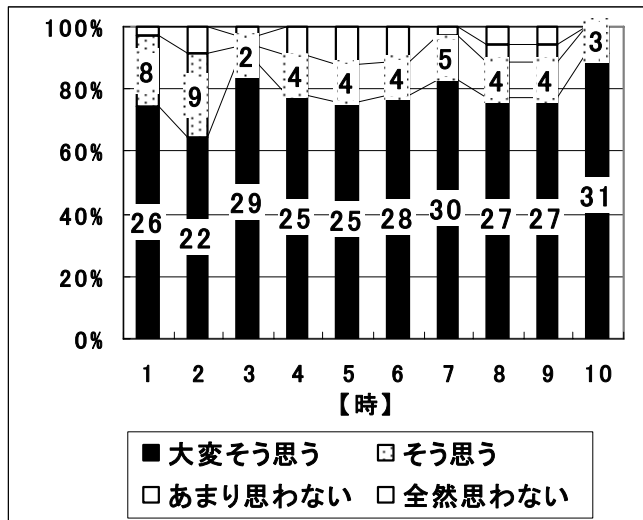


図 4-13 楽しんで踊ることができましたか

(ウ) ダンスの学習を通しての事後アンケートから

図4-14は、事後アンケート項目「ダンスの授業を通して踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」についての3段階評価の割合を表したグラフである。

このグラフから「はい」と答えている人数は34人で、94%の生徒が、踊る楽しさや喜びを味わうことができたと答えていることが分かる。

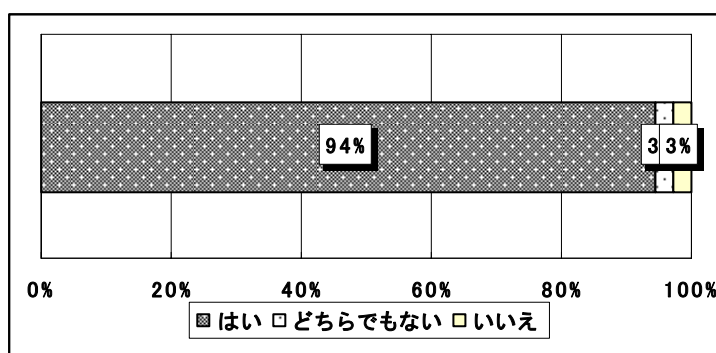


図4-14 ダンスの授業を通して踊る楽しさや喜びを味わうことができましたか

表4-8は、授業後アンケート「10回の授業を振り返って」についての生徒の記述の抜粋である。これらの記述からも、リズムに乗って踊ることができ、仲間と共に踊りながら、踊る楽しさや喜びを味わうことができたと考えられる。

表4-8 「10回の授業を振り返って」

- ・違う相手と踊ったりしてみんなと仲良くなれてよかった。リズムに乗れて楽しかった
- ・はじめはダンスなんて・・・と思って恥ずかしがりながらやっていたけど、今ではもっとダンスがやりたくなくて恥ずかしさのかけらもなくなってしまった
- ・最初はすごく嫌だったけど、やるごとにどんどん楽しくなってきた。違うクラスの人とも気軽に楽しめたから、友達づくりに最適だった。10時間ありがとうございました。絶対忘れません
- ・前より自分を捨てて踊れるようになったし、新しい友達もできました。みんなのためにも自分のためにもよい授業だったと思います。ぜひ、またダンスの授業を受けたいです
- ・短い間だったけどダンスについていつもの倍よくなった気がする。前に比べてリズム感覚がよくなったと思う。楽しい10時間でした
- ・たった10回でこんなに踊れるようになってびっくりした。とても楽しかったです
- ・とにかく楽しくて、これからもっとやっていきたいと思った。最初の授業と最後の授業では、もう恥ずかしさとかのりのよさとかが全然違った気がした。これからもたまたまにやっっていこうかなーと思う。すごく楽しかったです
- ・いろいろな人と触れ合うことができました。どうやったらきれいに見えるか、どう動いたらいいかがわかるようになった。これからもいろいろな曲に合わせて踊っていきたいと思います

検証の視点（3）「踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」についてのまとめ

検証の視点に沿って結果を分析してきた結果、次のことが明らかになった。

生徒は、ダンスの学習を通して踊る楽しさや喜びを味わうことができ、恥ずかしさもなくなった。

以上のことから、現代的なリズムのダンスの学習において、場・学習資料・学習形態の工夫をすることによって、踊る楽しさや喜びを味わうことができたと考ええる。

（4） 検証の視点のまとめ

検証の視点に沿って結果を分析した結果、次のことが明らかになった。

ア リズムに乗って体を動かすことができた

視点アにおいては、ダンスイメージビデオで、現代的なリズムのダンスのイメージが持てたこと、視点イにおいては、リズムカード・体カードを使ってリズムに合わせて動くことができたことが明らかとなった。

イ 仲間と共に踊ることができた

視点アにおいては、仲間と動きを教え合うことができたこと、視点イにおいては、仲間の動きを取り入れて、体を動かすことができたこと、視点ウにおいては、自分や仲間のよさを見つけることができたことが明らかとなった。

ウ 踊る楽しさや喜びを味わうことができた

視点アにおいては、仲間と一緒に動く楽しさを味わうことができたこと、視点イにおいては、ダンスの学習を通して踊る楽しさや喜びを味わうことができたことが明らかとなった。

以上のことから、仮説「現代的なリズムのダンス」の学習において、「場・学習資料・学習形態を工夫することによって、リズムに乗って体を動かすことや仲間と共に踊ることができ、踊る楽しさや喜びを味わうことができるであろう」の有効性が明らかになったと考ええる。

V 研究のまとめ

本研究では、踊る楽しさや喜びを味わうことができるようにするための場・学習資料・学習形態を工夫した学習指導法を明らかにすることをめざした。その結果、次のことが明らかになった。

1 研究の成果

(1) ダンスイメージビデオの活用について

ア 授業の導入にダンスイメージビデオを活用したことで、現代的なリズムのダンスに対して関心や意欲を高めたり、理解を深めさせることができ、視覚的に学習への動機付けを図ることができた。

(2) リズムカード・体カードの活用について

ア リズムカードを活用したことで、体でリズムを取ることができるようになった。
イ 体カードを活用したことで体の部位を意識して動かすことができるようになった。
ウ リズムカードと体カードを一緒に活用したことで、リズムに乗って体を動かすことができるようになった。

(3) 視聴覚機器の活用について

ア 視聴覚機器を活用し、踊っている姿をスクリーンで見ることによって、自分や仲間の動きのよさを見つけることができた。

(4) グループ編成について

ア グループ編成を2人組・4人組・6人組・8人組と段階的に変化させることによって、多くの仲間の動きを取り入れながら、仲間と一緒に踊る楽しさを味わうことができた。

(5) 交流会について

ア 単元の途中お互いの動きを教え合って踊ったり、単元の最後に動きを次々と交代して踊ったりする交流会という形を取ったことで、お互いの動きを共有し、一体感を味わうことができた。

2 研究の課題

(1) 視聴覚教材の活用について

今回の授業では、ダンススタジオのように鏡をイメージして、踊っている姿をプロジェクターで映し出し、大きなスクリーンで見たが、グループ数が多かったため効率が悪かった。これを改善するために、ビデオカメラとテレビを用意してグループや個人で自由に動きを繰り返し見られる工夫をすることによって、さらに動きの気付きがみられ、動きを変化させるのに役立つと思われる。

(2) 教師の言葉がけについて

音楽に対する動きのイメージがつかめず、動きが停滞してしまった時に、個人やグループに対してリズムに乗りやすくするための教師の支援の仕方について考えていかなければならないと思われる。

(3) イメージビデオについて

現代的なリズムのダンスのイメージを持たせるために、過去の映画からダンスシーンを取り出して編集したが、身近な上級生などの踊っているシーンを入れることで、さらにダンスを身近に感じさせることができるとと思われる。

3 今後の課題

(1) 3年間を見通した学習指導計画の作成

今回は、「現代的なリズムのダンス」を取り上げて授業を展開したが、ダンス領域の内容である創作ダンス、フォークダンスとどのように関連させて取り扱うか、又、3年間を見通しダンスを实践できる態度を養うための学習指導計画や、より具体的な評価計画を立てる必要があると思われる。

[引用・参考文献]

- 1) 村田芳子『最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス』小学館 2002
- 2) 西村怜子・磯島紘子・藤原文江・荒木恵美子・井上邦江共著『表現・ダンス学習指導の体系化を目指して』遊戯社 1986
- 3) 宇土正彦監修 阪田尚彦 高橋健夫 細江文利編集『学校体育授業辞典』大修館書店 1995 7月
- 4) 改訂中学保健体育の研究(保健分野)
- 5) 宮本乙女「中学校の発達と動き・仲間・題材」『ダンスの教育学』日本教育書籍、1992年
- 6) 松本富子「現代的なリズムのダンス編」『中学校保健体育科の授業モデル』明治図書、2003年
- 7) 細江文利「演繹的学びから帰納的学びへ」『体育科教育』2000,3月号、大修館書店、2000年
- 8) エミール・ジャック=ダルクローズ『リズムと音楽と教育』全音楽譜出版社 1985年3月
- 9) 岩崎光弘『リトミックってなあに』ドレミ楽譜出版社 1994年8月
- 10) 宇土正彦 高橋 稔 長島惇正 高橋健夫 編著『体育科教育法講義』大修館書店 1997年12月
- 11) 成田十次郎 川口千代 杉山重利『シュパース』ニチブン 1998 2月
- 12) 杉山重利 高橋健夫 園山和夫 細江文利 本村清人『中学校体育の授業』大修館 2001
- 13) 『評価基準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』評価基準、評価方法等の研究開発(報告) - 国立教育政策研究所 教育課程研究センター